

北埼玉の地蔵祭り

三田村 佳子

はじめに

盆の終わったすぐあとの旧暦7月24日を「地蔵盆」と称して子供たちが中心となって地蔵尊の祭りをする習俗は、西日本、とくに近畿地方に濃厚に分布し、東日本ではほとんど見ることはできないといわれてきた。もちろん地蔵信仰そのものは東日本でも全域に認められるし、それに関わる祭りや講も存在するが、一般に地蔵盆というかたちではないのである。

ところが、埼玉県北部地方には同じ期日、すなわち盆の後の24日に「地蔵祭り」「地蔵の縁日」などと称して地蔵を祭るふうがかなり盛んであることがわかった。場合によっては「地蔵盆」の文字すら登場する調査報告書も存在している。また新盆の提灯を地蔵尊に納めるなど、盆との関わりをうかがわせる行事も存在する。もちろん、埼玉県の他地域でも地蔵の祭りが存在しないわけではないが、多くは寺や地蔵堂などの施設を背景としての祭りになっており、その信仰圏も比較的広い。それに対し、北埼玉地方ではごく狭い範囲の各小字ごとに祀られる路傍の地蔵尊が対象となり、子供たちの関与が特徴となっている。そして、この行事のもうひとつの特徴として団子の供物が存在する。団子を神饌・供物とする習俗は他地域でも見られ、また周辺地域には団子だけでなく甘酒や桑を神饌とする地域が広がっている。あるいは、祭りの内容として真言を唱えたり、村廻りをしたりと地域による変化も確認できる。

本稿では北埼玉地方に集中する地蔵祭りについて、他の行事や周辺地域の祭りとの関係の中でいかなる位置づけを持つかを考えてみたい。

1 地蔵信仰と地蔵盆

地蔵信仰はもともと仏教から出た信仰である。地蔵菩薩は大慈悲をもって衆生の苦しみを除いてくれる菩薩とされ、平安時代からまず貴族社会で広まった。比叡山横川の浄土教の地蔵信仰が地蔵講、地蔵会という形を通じて民間に広まっていったとされる。中世以降は、この世とあの世の境に立ってあの世へ行く者、とくに子供を救済する仏として篤く信仰され、境の神である道祖神とも習合して民間信仰として発展し、右手に錫杖、左手に宝珠を持つ姿が定着した。

地蔵尊の縁日は月の24日とされ、「地蔵講」「地蔵祭り」「地蔵様」などと呼ばれて現在もさまざまな行事が行われている（註1）。そのうち旧暦7月24日の行事は盆行事に続いての時期であり、盆踊りがあったり、「地蔵盆」の他「うら盆」などの名称が使用されていることから推察できるように、この日を盆行事の終了の日、あるいは盆行事の最後の日が切り離されて取り残されたものとも考えられている。

すでに述べたように、この日を「地蔵盆」と呼んで行事を行うふうは西日本一帯、とくに近畿地方に濃密に分布している。京都での行事は夏の終わりの風物詩としてよく知られている。各町内ごとに行われており、8月23日から24日にかけて、子供たちが中心となって行う行事である。代表的な行事の流れを見てみると、町内の地蔵堂や祠の前に小屋を掛けて地蔵尊を祀り、地蔵尊に化粧を施して花などの供物を捧げ、提灯をさげる。各家の軒先には絵を描いた行灯が灯される。午前中に寺の住職による読経があり、その後子供たちが輪になって数珠廻し（百万遍）をするところもある。夕方からは盆踊りなどの余興が行われる。また地域によっては六斎念仏を唱える。またこの日には「六地蔵巡り」も行われる。これは京に通じる六つの街道の入口のそれぞれに建てられた寺院に祀られる地蔵尊を巡拝することで、町内に悪疫の侵入するのを防止する意味合いも含まれ、各寺院から受けた幡は護符として家の玄関に吊される。

しかし、この地で「地蔵盆」という名称を使用するようになったのは、さして古いことではないという。近世の文献では「地蔵盆」の語は登場せず、もっぱら「地蔵祭」「地蔵会」と記載されているのである。地蔵尊が死んだ子どもの守り仏であるとの信仰や、平安時代から続く子供たちの塞の神祭りの習俗などを取り込んで、盆月である7月に行う行事として近世の地蔵祭りが成立したという（註2）。この日をまた「うら盆」ともいって盆の終了時期と一致することから、あるいは「地蔵盆」の名称が使用されるようになったのかも知れない。

地蔵の縁日自身は24日というだけで、もともと特定の月や季節とは関わっていなかった。地蔵と盆が結びついてくるのは、地蔵がこの世とあの世との境に立つとされ、それが道祖神信仰と習合した結果といわれる。

『日本民俗地図Ⅰ』から「地蔵盆」の分布の概要を見てみよう。「地蔵盆」は西日本に特徴的な名称で滋賀県、京都府、大阪府一帯に濃密に認められ、東日本では新潟県、富山県に単発で見られるだけである。また、「地蔵講」の名称で、山形県、福島県に一例ずつ認められる。さらに「地蔵祭り」の呼び名では奈良県、新潟県、富山県、福井県、岐阜県、愛知県にある。また「地蔵盆」の名称はなくても地蔵の祭りを行う地域が中部、北陸地方に分布する。あるいは、この24日を「うら盆」といって盆の終了する日とする伝承は広く、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、福井県、静岡県や四国地方に濃厚に分布する（註3）。

いずれにせよ地蔵祭りと盆が結びついた「地蔵盆」という名称の行事は、京都を中心とした近畿地方で盛んであり、さらに中部、北陸地方へと広がっている。そして関東地方から先は分布や形態にばらつきが見られるようになる。

関東地方での一例をみると、神奈川県平塚市旧平塚宿の「地蔵盆」は8月24日で、小学生男子の行事である。事前に地蔵の護符を刷って各戸を廻り、線香代、蠟燭代としてお金を集めた。この日は地蔵の前に竹で鳥居型の枠と相撲の土俵を作る。竹枠には新盆の家が盆提灯を持ってきて吊し、ハウセンカを集めて飾る。各戸からお参りにやって来て、蕎麦やヘラヘラ団子を供えた。土俵では相撲が行われる。時には芸人を頼んで芝居もした。夜には念仏婆さんと呼ばれる念仏講の人が地蔵の前で念仏や御詠歌を唱えるという（註4）。ただし、こうした習俗が一般的であったとはいえない。

このように、「地蔵盆」の名称は関東地方で見られないわけではないが、しかしごく限られたもので、名称としては一般に「地蔵祭り」「地蔵講」などの語が使用されている。

2 北埼玉の地蔵祭り－具体例を中心に－

埼玉県の北部地方では、旧暦の7月23日、あるいは24日を中心に地蔵尊を祭る行事が盛んであった。全般的に見ればしだいに衰退はしているが、それでもなお一部の地域では今でも各字、各町内ごとに熱心に行われている。ここでは具体的事例を追っていく。以下、地域名、名称、祭日、御利益、祀り場所、行事内容、その他の順に記していくが、記述の都合上、必ずしも順番通りにはなっていない。なお〈 〉内の事例番号は表1の番号と対応している（註5）。

北埼玉郡は地蔵祭りのもっとも盛んな地域で、行田市、加須市、羽生市、騎西町、大利根町、川里村に分布している。

行田市

佐間の「地蔵祭り」〈1〉。8月23日。子育て。高源寺境内。12人の2年交代の廻り番の祭事係が中心になり、天満社にある集会所で準備をする。費用は地区費から出す。団子を作って参拝者に配る。

埼玉では上埼玉、片原、百塚で行われてきた。上埼玉の「地蔵祭り」〈2〉。8月23日（現在はそれに近い日曜日）。子育て。「花見地蔵」といい、普段は道端に祀ってある地蔵様を当番が集会所に運んで祭る。地区の祭りとして盛大に行い、終わると宿で会食し、踊りやカラオケも行われる。

片原の「地蔵様の祭り」〈3〉。8月23日（現在は中旬の日曜日）。子育て。かつては片原全体で祭っていたが、戦時中から第三が抜けて第一と第二で祭るようになった。かつては演芸もやったし、賑やかであった。現在は班長が集まって会食をするだけである。

百塚の「地蔵祭り」〈4〉。8月23・24日（この時期が蚕で忙しかったため、昭和初期から20日遅れの9月13日に変更）。子育て、五穀豊穡。安楽寺境内。かつて丸墓山古墳脇に西行寺という寺があり、子授けを願う人に素焼きの小さな子育て地蔵を貸し出し、子を授かると寺に返してもらう習俗があった（写真1・2）。幕末に廃寺になるときに安楽寺でこの風習を安楽寺で受け継いだ。大正3年に安楽寺住職が地域活性化、青年団育成のために「子育て地蔵の盆祭り」と銘打って、青年団を中心として始めた。灯笼（註6）を参道に並べ、正面には大きな灯笼を立て、団子を3、4升ほど作って参拝者に配った。また仮舞台を作り、興行師を頼んで田舎芝居、漫才、浪曲などをやり、露天商もたくさん出るほど賑やかであったが、昭和43年を最後に止めている。

小見砂新田の「地蔵祭り」〈5〉。7月23日。子育て。特別な行事は何もなく、世話をする当番



写真1・2 西行寺の子育て地蔵
（表） （裏）

もない。提灯を灯し、近所の者がおはぎを供えに来るだけである。

長野林の「地蔵祭り」〈6〉。8月23日。昭和20～30年代には仮設舞台を設けて田舎芝居などを行っていたが、現在は灯籠をいくつか立てるだけである。参拝者には地蔵様のお姿のお札を配り、終わると宿で会食をする。

酒巻の「地蔵祭り」。上〈7〉、中〈8〉、下〈9〉の組でそれぞれに地蔵を祀っている。8月23日。子育て。子供が生まれるとお地蔵様に赤い着物を着せる習慣がある。各組の年番（2～4人）が出て世話をする。各戸から米を集め、粉に挽いて団子を作って供え、灯籠を吊す。灯明をあげ、線香を焚き、朝早くに慶岩寺の住職が各地蔵前で読経する。団子は護符として配るが、今はたれ付きの団子も参拝者に配っている。上・中・下とそれぞれの組で地蔵祭りをした後に、全組が集まって一緒に宿で会食をする。

中里の「地蔵様の祭り」〈10〉。2月24日・8月23日。子育て。老人たちが近郷から集まって灯籠を立て、「お真言」と称して八幡神社社殿で太鼓・鉦を打って地蔵の供養をした。綿の栽培の盛んな頃は祭りに綿の種を参拝者に配り、これを播くと綿が良くできるといわれ、多くの参拝者で賑わった。しかししだいにさびれ、すでに何もしなくなっている。

北河原では里前、立野、天袋、新田の各小字で行われている。里前の「地蔵様の祭り」〈11〉。8月24日（現在は7月24日）。水難除け。すぐ前に用水があり、昔そこで子供が遊んでおぼれたりしたことがあったからという。6班に分かれ、班ごとにお祭り当番を受け持つ。以前は当番が月代わりであったが、8月には風祭りと合わせて二つの行事があり大変だったので、15、6年前に地蔵様の祭りを7月にずらした。当番は現在は一年交代になっている。各戸に灯籠があり、「地蔵尊」と書いた紙を貼り直して軒先に立て、地蔵様には大きな灯籠を立てる。午後になると全戸が農村センターに集まって宴会をし、夜お参りに来る人は団子を持ってきて供える。立野の「地蔵祭り」〈12〉。8月23日。子育て。男児の行事として行われる。子供たちが各戸を廻って費用を集め、母親が手伝う。当番の家では祭りの時に赤の帽子とガケを作って地蔵様に着せる。当日は雨に供えてビニールなどで屋根を掛け、灯籠を子供たちが描いて道路に立てる。団子は以前は親たちが作っていたが、現在は買ってくる。子供たちが参拝者に団子を配る。天袋の「地蔵様」。8月24日。道下〈13〉、道南〈14〉、下宿〈15〉に地区が分かれ、それぞれで祭りを行っている。子育て。当番が費用を集め、世話をする。子供たちが灯籠に絵を描いて立てる。団子を作って供え、子供たちがみなお参りに来るので団子を紙に包んで配る。第二次世界大戦前までは芝居をやったりと賑やかであった。現在は各戸から集まって一杯飲む親睦の会となっている。新田の「地蔵祭り」〈16〉。8月23日。子育て。以前は廻り順の年番が各戸から米を集めて粉に挽いて団子を作っていたが、現在は金を集めて団子を買っている。灯籠を貼り替えて立てる。また各家でも灯籠があり、家の前に立てる。

門井の「地蔵祭り」〈17〉。8月23日。「子供灯籠」ともいう。子育て。法性寺境内。小学一年生から中学二年生の男児による行事。中学二年生が親方になって一切を取り仕切る。境内に竹製の小屋掛けをし、そこに地蔵様を安置して祭る。灯籠を飾る。団子を供え、参詣者に配る。

堤根の「地蔵様祭り」〈18〉。8月23日。子育て。永徳寺境内。小学生（男女）の行事で、地区と児童会と共同で実施する。午前中に子供たちが集まり、灯籠に絵を描いて参道に立てる。夕飯後

に花火、肝試し、ゲームなどをして遊ぶ。

前谷の「地蔵講」〈19〉。9月彼岸（現在はそれに近い日曜日）。子育て。光明寺境内。地蔵様の襷を新しくし、団子、果物、野菜などを供える。住職が読経をし、その後宿で会食をした。もともとは地区の衛生協力で世話をしていたが、近年になって寺でやるようになってからは団子も作らなくなったし、会食もしなくなった。また、3月の彼岸近くの日曜日には水子地蔵の祭りを行っている。

須加横塚の「地蔵様」〈20〉。8月24日（現在はそれに近い日曜日）。子育て。廻り番の伍長という当番5人と自治会長が世話をする。各戸から費用を集め、地蔵様の前掛けを新しく提灯を灯し、団子を作って供える。参拝者に団子を配るが、これを食べると病気にかからないという。集会所で会食をする。新盆の家では盆提灯を納めに来る。

加須市

本町北横町の「地蔵祭り」〈21〉。8月23日。子育て。全戸が地蔵様に隣接する家に集まって団子作りと灯籠作りをする。当家はもと煎餅屋であり、この家の主人が団子の粉の練りをするようになっていた。空き地で100個ほどの灯籠を作る。地蔵様にお参りに来る人たちに子供たちが団子を配る。この団子を食べると風邪を引かないという。夜は川で灯籠流しをする。

久下の「地蔵祭り」〈22〉。8月23日。

不動岡では横町、下谷で行われている。横町の「地蔵祭り」〈23〉。8月23日。子育て。婦人会が中心になって世話をする。団子を作って供え、総願寺の住職が読経する。夜には盆踊りがある。また新盆の家では盆提灯を納めに来る。下谷の「地蔵祭り」〈24〉。7月23日。

多聞寺又根の「地蔵祭り」〈25〉。8月23日。延命。ここには観音様なども一緒に祀ってある。4班に分かれており、班の順に祭りの世話をする。団子を作って供え、提灯をあげ、灯籠を30個（現在は10個ほど）ほど沿道に立てる。寺の住職が経を読むが、昔は皆で念仏をあげた。夜は川端で子供たちは花火をする。かつては新盆の家で盆提灯を納めに来たが、子供がいたずらをするので今はやらなくなった。

大越樋之口の「地蔵様のお祭り」〈26〉。8月23日。年寄が長患いをせずに死ねる地蔵様という。当番が4軒ずつ一年交代で世話をする。かつてはそれぞれの家で団子やぼた餅を作って地蔵様に供えに来たが、現在は宿で当番が団子を作って花とともに地蔵様に供え、参拝者に護符として配る。この団子を食べると風邪を引かないという。

割目の「地蔵講」〈27〉。3月15日・9月13日（後に3月15日だけになり、さらに3月第二日曜日に変更）。子育て、疔取り。桂性寺境内。檀家の行事であるが、それ以外の近隣の人も多く参拝する。当番4軒が世話をする。住職が読経の後、本堂に米や油揚げなどを持ち寄って御飯と豆腐汁を作って、「地蔵お齋」と称して会食をする。ただし、現在は料理屋からとった仕出しの料理ですませている。

水深籠宿の「地蔵祭り」〈28〉。8月23日。ただし、現在は地域で祭ってはいない。個人的に団子を供えたりする程度である。

馬内では富士見、下原で行われている。富士見の「地蔵祭り」〈29〉。8月23日。子育て。かつ

ては子どもの厄除けや健康祈願のため、地蔵尊を担いで巡行した。当番2人が中心となって全戸で宿に集まり準備をする。団子を作って花や果物とともに供え、線香をあげ、延命寺の住職が経を読む。団子を食べると丈夫な子に育つという。終わると寺で会食となる。かつては新盆の家では盆提灯を納めに来た。下原の「地蔵様」〈30〉。9月の都合の良い日曜日。東武線がすぐ脇を走っており、鉄道事故者の供養や事故から人々を守るための地蔵様。当番などはとくになく、近所の人が集まって地蔵様を掃除し、花や団子を作って供える。

岡古井では、本田（西・川面）、中島で行われている。本田の「地蔵祭り」。8月23日。子育て。本田には地蔵が2体あり、1体は真如院前にあり西〈31〉で、もう1体は川面にあり中郷、川面、鍋沼の3耕地〈32〉で祀っている。基本的な行事内容はまったく同じといってよく、唯一の相違点は、供え物の団子の材料が前者は大麦（「麦団子」「挽割り団子」ともいう）、後者は米である点である。子供たちの祭りであり、小学校・中学校の男児が参加し、中学三年生が親方になって指示を出して行く。かつては地蔵様の脇に小屋掛けをして子供がお籠もりした。20日から子供たちが地蔵様の脇に穴を掘って丸太を立て、島台（1×2mほどの台）を床にし、エビラ（養蚕道具）で囲い、藁をさげてトタン板を屋根にして蚊帳を吊った小屋を建て、23日まで每晚布団を持って泊まり込んだ。子供たちの一番の楽しみであったが、第二次世界大戦後中止になった。また、20日の夜中に子供たちが組中の家を一軒ずつ廻って大麦や米をもらって歩いた。出す量は家によって決まっています。少ない家は1合という所もあるが、たいていは5合から1升くらいであった。団子は大人が宿で作る。西では家順に廻り番で一軒ずつ行く当番の家（川面では親方の家）を宿にして、手のある家から手伝いに出たが、現在は全戸から手伝いが出ている。集めた大麦や米を粉にしてもらって団子を作り、地蔵様に供える。西の大麦団子には黄粉をまぶすので、材料の大豆は当番が出す。昔は飯台に4～5台分あり、この団子を食べると病気にならないという。団子が出来ると大人たちは会食をして解散する。出来た団子は子供たちが家々を廻って売り歩く。以前は新聞紙を袋にして団子を20個くらい入れ、集まったお金は親方が年齢に応じて配分した。今は作る量も少なくなったが、ビニール袋に入れて売っている。川面では近所の大人が集まって団子を買って地蔵様に供える程度になってしまった。新盆の家では盆提灯を納めに来る。中島の「地蔵祭り」〈33〉。8月23日。子育て。以前は子供たちが竹や葦、藁などを持ち寄り、地蔵堂の前に簾の小屋を作って前日からお籠もりをした。祭りには村から集めた米を粉に挽き、団子にして参詣者に配る。

上三俣では東木戸、仲通、学頭下で行われている。東木戸の「地蔵祭り」〈34〉。3月23日・8月23日。持ちまわりの宿で、「団子丸め」と称して団子を作って供える。仲通の「地蔵祭り」〈35〉。8月23日。子育て。地区が8班に分かれていて、各班長が世話をする。団子を作って供え、地蔵様の脇に椅子とテーブルを出し、お参りに来た人に酒などの接待して団子を配る。この団子を食べると風邪を引かない、丈夫に育つなどという。学頭下の「地蔵祭り」〈36〉。8月23日。地蔵様の脇に庚申様もあり、庚申様はもともと10月11日に祭りをしてしたが、両方やるのは大変なので、現在は「地蔵庚申祭り」として8月に両者を合わせて行っている。「こてっばら地蔵」といい、これは地蔵の脇腹に穴が開き漆喰で閉じられているところからつけられた名称で、脇腹が痛いとき同じところをなでれば治るという。学頭の下を中心とした地区が3班に分かれ、班で交代で世話をす

る。昔は米を集めて団子を作っていたが、現在は団子を買って来る。地蔵様に提灯を飾り、近くの集会所で会食をする。

下三俣深沼の「地蔵祭り」〈37〉。9月第一日曜日。

南大桑では鳩山、熊坂で行われている。鳩山の「地蔵祭り」〈38〉。9月23日。熊坂の「地蔵祭り」〈39〉。9月23日。

北篠崎では上中通北、上中通南で行われている。上中通北の「地蔵祭り」〈40〉。8月23日（現在はそれに近い日曜日）。子育て。灯籠を飾り、団子を作って供える。以前は祭りがすんでも一週間か10日くらいは灯籠はつけていた。連絡員の家で会食をする程度である。上中通南の「地蔵祭り」〈41〉。8月23日。子育て。行事内容は北と同じであるが、すでに止めている。

南篠崎の「地蔵祭り」〈42〉。9月23日。

中樋遣川の北瀬田和の「地蔵祭り」〈43〉。8月23日。個人持ち。棘抜き地蔵といわれていたが、10年ほど前から身代わり地蔵といい、団子を供え、子供たちに配る。400個以上の灯籠を沿道に立て、花火を打ちあげる。

下樋遣川の壱両野の「地蔵祭り」〈44〉。8月23日。廻り番の当番が団子を作って供える程度しか行っていない。

町屋新田入沼の「地蔵祭り」〈45〉。8月23日。廻り番の当番が世話をする。各家で重箱一杯の団子を作り、提灯を持って来る。提灯は地蔵様の廻りに吊す。参拝者は線香を供え、団子をいただく。新盆の家では盆提灯を納めに来る。この提灯は当番が後で焼く。

礼羽では前新田と谷新田で行っている。前新田の「お地蔵祭り」〈46〉。8月23日。疣取り。とくに当番ということはなく、家数が少ないので全戸で一緒に世話をする。灯籠を地蔵様と各戸の前に立て、団子を作って地蔵様に供え、金蓮院の住職が拝みに来る。近所の者がお参りに来て線香とお賽銭をあげると団子を配っていたが、現在は団子は作らなくなっている。かつては地蔵様の前の家の3軒を順に宿にして会食をしていたが、今は料理屋ですませている。昔は新盆の家が盆提灯を納めに来た。谷新田の「地蔵祭り」〈47〉。8月23日。よく願い事をきいてくれる地蔵様として知られる。もともとは特に地蔵の祭りは行っていなかったが、子供が続けて死んだり、脇の鉄道で事故があったりと不幸が続いたとき、それは地蔵様をおろそかにしているといわれて、昭和初期から行うようになった。家順で一軒ずつ一年交代で当番として世話をする。団子を作り、酒を一升あげ、寺から住職を頼んでお経をあげてもらう。お参りに来た人には団子を配る。団子は「一重箱」といって、大きさは特にかまわないが重箱に山盛りにきれいに積む。夜には当番の家を宿として会食をしたが、現在は料理屋に出かけている。以前は新盆の家から盆提灯を納めに来た。

外野下の「夏祭り」〈48〉。8月23日。棘抜き。地区は6班に分かれ、各班から1軒ずつが当番として出て世話をする。地蔵様に提灯を下げ、参詣者は線香やお賽銭を供え、団子をいただく。現在地域の夏祭りとして、若者の睦会が中心となって前の空き地で盆踊りやカラオケ大会を開催し、屋台なども出るので、子供も大勢集まる。

戸川卯の森の「地蔵祭り」〈49〉。8月23日。「取持ち地蔵」、「縁地蔵」という。5組に分かれ、廻り番で連絡員などの三役とともに当番をする。行灯を立て、団子を作り、参拝者に配る。第

二次世界大戦前は大変賑やかで露店も出て、若い男女が出合いの場として大勢やって来た。

羽生市

市街地では栄町、相生町、下町、愛宕町、旭町、大和町、上町、東町の各旧町内ごとに祭りが行われている。栄町（中央一丁目）の「地蔵祭り」〈50〉。4月23日・8月23日。昭和7年に毘沙門堂の下から出てきた地蔵を祀ったといい、社寺委員が世話をする。春は団子を供えるだけである。秋は行灯や提灯を灯し、正学院の住職が拝みに来る。太鼓を叩いて祭りを知らせ、参拝者に団子を配る。相生町（中央二丁目）の「地蔵祭り」〈51〉。8月23日。地蔵堂。「鬼門除け地蔵」、「首切り地蔵」ともいう。安産祈願、子育て。社寺委員5人と1～5丁目から各1人の計10人で世話をする。灯籠や提灯を灯し、団子を作って供える。建福寺から住職が来て読経する。新盆の家では盆提灯を納めに来る。下町（中央三丁目）の「地蔵祭り」〈52〉。8月23日。子育て。6班に分かれ、廻り番で年番をする。費用は町会費から出す。団子、果物、花、線香をあげ、提灯を飾る。この団子を食べると風邪を引かないという。新盆の家では盆提灯を納めに来る。愛宕町（中央四丁目）の「地蔵祭り」〈53〉。8月23日。子育て。愛宕神社境内の地蔵堂。夕方から藤井上組の源長寺から僧侶を迎えて法要をする。町内では役員が米の粉を買って団子を作り、参詣の人に供物として数個ずつ配る。新盆の家では盆提灯を納めに来る。翌24日は火伏せの愛宕様の祭りであり、祭典をして参拝者には金魚を配る。夜には用水で花火をあげる。旭町（南五丁目）の「地蔵祭り」〈54〉。8月23日。稲荷神社境内。6班に分かれ廻り番で年番となり、年番長を中心にして理事12人、評議委員30人、班長6人などが世話をする。費用は夏祭りの残り、賽銭、町会費で賄う。団子を作り、参詣者に3～4個ずつ配る。これを食べると丈夫に育つという。新盆の家では盆提灯を納めに来る。提灯は後で焼く。大和町（北一丁目）の「地蔵祭り」〈55〉。8月23日。子育て、身代わり。11班に分かれており、班長11人と役員8人が世話をする。団子を作って供える。砂糖菓子なども供える。正光寺の住職が拝み、新盆の家では盆提灯を納めに来る。提灯は後で焼く。終わると公会堂で会食となる。上町（北二丁目）の「地蔵祭り」〈56〉。8月23日。団子を作って供える。新盆の家では盆提灯を納めに来る。提灯は後で焼く。東町の「地蔵祭り」〈57〉。8月23日。役員が10人ほどで世話をする。費用は町内費で賄う。団子を作って供える。夕方になって鉦を叩くと人々がお参りにやって来るので団子を配る。これを食べるとクチュムキの薬として腹痛・風邪に効くという。新盆の家では盆提灯を納めに来る。提灯は後で焼く。

羽生本光寺の「地蔵祭り」〈58〉。8月23日。二十三夜様、庚申様も一緒に祀っている。各家で団子と餅を搗いて供え、終わると下げる。現在は作っておらず、代わりに饅頭などを供えている。

下羽生の「地蔵様の祭り」。8月23日。谷〈59〉、西〈60〉、本田〈61〉の各耕地に地蔵尊が祀られ祭りが行われている。安産、子育て。廻り番の当番の家を宿にして、両隣の家が手伝う。以前は前日に各戸から米を集めて団子を作ったが、現在はオサゴ代といってお金を集めて粉を買って作る。参詣者には団子をひとつかみずつ配る。新盆の家では盆提灯を納めに来る。

秀安の「地蔵祭り」。8月23日。上郷〈62〉、下郷〈63〉でそれぞれ行っている。子育て。持ちまわりの氏子総代が世話をする。各戸から米1升を集め、団子を作って供え、灯籠を立てる。子供達が団子を貰いにやって来る。新盆の家では酒を持って提灯を納めに来る。この提灯は後で焼く。

本川俣の「地蔵祭り」〈64〉。8月23日。子育て。千手院。「廻り地蔵」といい、本川俣の家々を1軒が1～7日ずつ預かりながら廻り、ひとまわりすると千手院に戻り、また廻っていく。各家では床の間に地蔵様を安置し、お茶・線香・食事などを供える。祭りの日には必ず寺に戻し、祭りが終わるとその日のうちに次の家に運ぶ。6班に分かれ、班ごとの当番が世話をする。団子とハナ（紙と竹で作った造花）を供え、住職の読経がある。新盆の家では盆提灯を納めに来る。

上川俣では北口と南口で行われている。北口の「地蔵祭り」〈65〉。8月23日。廻り番で宿をし、そこに集まって団子や料理を作り、地蔵様に供える。新盆の家では盆提灯を納めに来る。宿で会食し、地蔵様のところでカラオケをやっている。南口の「地蔵祭り」〈66〉。8月23日。子育て。当番7人が宿で団子を作る。かつては各戸から米2合ずつ集めていたが、現在はお金になっている。「地蔵尊」と書いた灯籠を立てる。夜、参拝者に団子を配るが、これを食べると風邪を引かないという。舞台を掛けてカラオケ大会をし、花火も上げる。新盆の家では盆提灯を納めに来る。

稲子では地区別というより、それぞれの菩提寺の檀家ごとにまとまっており、源昌院、光明院、薬師堂を核としている。源昌院の「地蔵様」〈67〉。8月23日。源昌院の檀家で祀っている。4軒ずつで廻り番の当番が世話をする。盆の16日に当番が袋を持って各戸を廻り、米を集めた。宿で団子を作っていたが、現在は各戸からお金を集め店に頼んで作ってもらっている。夕方、鉦を叩くとお参りの人がやって来るので、団子を配る。これを食べると風邪を引かないという。新盆の家では盆提灯を納めに来る。この提灯は後に寺で焼却する。以前は子供が花火で遊んだりもした。光明院の「地蔵祭り」〈68〉。8月23日。光明院の檀家で祭る。当番が中心となって、宿で団子を作って供える。これを食べると病気にならない。新盆の家では提灯を納めに来る。この提灯は後に寺で焼却する。薬師堂の「地蔵祭り」〈69〉。8月23日。薬師堂墓地に墓を持つ家で祭っている。当番が廻り番で2軒ずつ世話をする。各戸から米3合を集め、重ね餅と団子を作って供える。地蔵様に提灯を灯し、夜になるとお参りの人がやってくるので団子を配る。新盆の家では盆提灯を納めに来る。

中岩瀬では上と下で行われている。上の「地蔵様」〈70〉。「百八灯」「鎮守様の祭り」「行灯祭り」とも呼んでいる。8月23・24・25日。愛宕神社境内。「行灯祭り」は新しい名称である。愛宕神社・天神社・地蔵尊の祭りを一緒にやっている。社人4人が世話をし、余興については実行委員会が行う。23日に岩松寺の住職が地蔵尊を供養する。夕方から「御神燈」「地蔵様」と書いた灯籠が境内とこれに通じる道筋に立ち並んで灯が灯され、26日に倒される。団子を作ってあげ、参詣者に配る。新盆の家では提灯を納めに来る。昭和30年頃までは青年団が運営をまかされ、23日の晩に芝居や八木節が演じられ、氏子や招かれた親戚で賑わったという。その後一時途絶えていたが、近年カラオケ大会が催されるようになった。下の「地蔵祭り」〈71〉。3月23日・9月23日の彼岸。「与一兵衛地蔵」といい、廻り番の社人6人が世話をする。米を各戸から集めて団子を作り、護符として参拝者に配る。米の量は思し召しと決めておらず、各家が判断して出している。新盆の家では盆提灯を納めに来る。

下岩瀬では全体で行う祭りとは下だけで行うものがある。下岩瀬の「地蔵祭り」〈72〉。8月23日。下岩瀬全体で祀っている地蔵が何体か各地にあり、それらをまとめて行う。20～30人の役員が天宗寺に朝から集まり、団子とハナ（竹串に紙製の花をつけたもの）を作り、各地蔵様に供えて廻

る。新盆の家では盆提灯を納めに来る。下の「地蔵祭り」〈73〉。3月23日・9月23日。子育て。廻り番の当番6人が各戸から米2合程度を集めて粉に挽いて団子を作る。これを食べると風邪を引かないという。灯籠をたくさん立てる。春は簡単に、秋をきちんとやることになっている。春は岩松寺から住職が拝みに来る。

桑崎ではいずれも個人持ちの地蔵が2体祀られている。河田家の「地蔵祭り」〈74〉。8月23日。子育て。以前は当家で祭りの世話をしていたが、近年は地域役員が3～4人出て世話をしている。団子は各家で作って持ってくる。団子を食べると風邪を引かない、子供が丈夫に育つという。新盆の家では盆提灯を納めに来る。柿沼家の「地蔵祭り」〈75〉。十五夜（旧暦8月15日）。もとは個人持ちであったが、途中から地区持ちになる。ただし祭りはほとんど行われず、当家で団子を作って供えるだけである。

小松大門の「地蔵祭り」〈76〉。8月23日。子育て、夜泣き止め。大門南（辻）・大門北（墓地）にそれぞれ地蔵が祀られている。「地蔵講」があり、廻り番で1軒ずつ宿になる。各戸から1升ずつ米を集め、宿で餅を搗く。餅は重ね餅と短冊状の切餅を作り、竹と色紙で「お飾り」を作る。灯籠をいくつか立てる。お参りに来た人に護符として切餅を配るが、これを食べると子供が丈夫に育つという。重ね餅は酒などの供物を奉納した人に切り分ける。北と南の両方の地蔵様にお参りに行く。新盆の家では盆提灯を納めに来る。かつては宿に芝居師を頼んで余興をしたりした。24日は片づけで、宿で会食をする。

上新郷では住吉、別所、中新田、宿上、横塚で行われている。住吉の「地蔵祭り」〈77〉。8月23日。子育て。住吉神社境内。上・中・下の3組で一年交代で当番が出て世話をする。各戸から「思し召し」といって思い思いの量の米を集めて、もとは年番の家（現在は社務所）が宿になって団子を作って供える。家の提灯に火を灯してお参りに来て地蔵様の脇に吊し、団子をいただいて帰る。新盆の家では盆提灯を納めに来る。別所の「地蔵祭り」〈78〉。8月23日。老人クラブが世話をしている。費用はお参りに来る人の賽銭で賄う。当日墓地から2体の地蔵様を集会場に移してお飾りをし、団子を作って供える。これを食べると風邪を引かないという。新盆の家では盆提灯を納めに来る。この提灯は地蔵様とともに墓地に飾る。中新田の「地蔵祭り」〈79〉。8月23日。子育て。16軒ずつが廻り番で当番をし、費用は賽銭で賄っている。集会所で灯籠を貼り替え、団子を作る。団子は色紙の飾りをつけた竹を刺した大きな団子である。夜になるとお参りにやって来て賽銭を上げ、団子をいただいて帰る。これを食べると風邪を引かないという。新盆の家では盆提灯を納めに来る。宿上（十二区）の「地蔵祭り」〈80〉。8月23日。愛宕神社境内。10人の年行事が廻り番で世話をする。お参りに来て賽銭を上げた人に団子を数個ずつ配る。これを食べると風邪を引かないという。第二次世界大戦前までは年寄（女性）が念仏を唱えた。去年から舞台を掛けて老人会で踊りをやるようになった。新盆の家では盆提灯を納めに来る。横塚の「お地蔵様」〈81〉。8月24日。子育て。各戸から米を集めて粉にして団子を作り、夕方お地蔵様に提灯を点して串に差した大きな団子一つ供え、子供たちには小さな団子を配る。

下新郷の「地蔵祭り」。8月23日。東〈82〉、藤兵衛〈83〉、藤木〈84〉、中〈85〉、野久保・小子松〈86〉でそれぞれ祭りを行っている。東、藤兵衛、藤木、中、野久保・小子松の5つの各地

区が、それぞれ元の地から大光院境内に地藏尊を遷して堂を造って祀っている。藤木は「瘡地藏」、中は「ケガ地藏」という。当日はそれぞれの地区から団子を持って祭りにやって来る。費用は下新郷全体の祭典費から出している。各戸から米5合ずつ集めて一つ1合の大きな団子を作り、それを5つずつ竹串に刺したものを各戸に配った。これを食べると風邪を引かないという。ただし今は饅頭を買ってきて供えている。新盆の家では盆提灯を納めに来る。一か所に5地区が集まっているため、それぞれの地藏堂の前に莫塵を敷いて宴会となり、全体の余興として仮舞台を設けてカラオケ大会なども催し、大変盛況である。

下新田の「地藏祭り」〈87〉。8月23日。栄新寺。「日限り地藏」といい、期限を定めて病気が治るように願掛けをする。7軒ずつの廻り番の当番が世話をする。団子を作って供え、夕方から参拝者に配る。新盆の家では盆提灯を納めに来る。

北荻島一班の「地藏祭り」〈88〉。8月23日。子育て。2軒ずつ廻り番で当番をする。各戸から米2合を集めて宿で団子を作り、灯籠を5個ほど立てる。お参りの人に団子を配るが、これを食べると風邪を引かないという。新盆の家では盆提灯を納めに来る。夜は宿で日待をする。

上手子林の辻の「地藏祭り」〈89〉。

中手子林では八反、八幡前、天神塚中、天神塚瓜ヶ谷戸で行われている。八反の「地藏様の祭り」〈90〉。8月23日。廻り番の当番2軒で世話をし、団子を作って供える。新盆の家では盆提灯を納める。かつては宿で会食をした。八幡前の「地藏様の祭り」〈91〉。8月23日。八幡神社境内。神社の当番5人で世話をする。団子を作り、夜お参りに来る人に団子を配る。これを食べると無病息災という。天神塚中の「地藏様の祭り」〈92〉。8月23日。個人持ちから地区持ちになった。昼に当番の家を宿にして団子を作り、夜になって地藏様に団子を供え、宿で会食をする。費用は会費と賽銭で賄う。天神様の灯籠を出して灯す。新盆の家では盆提灯を納めに来る。天神塚瓜ヶ谷戸の「地藏様の祭り」〈93〉。8月23日。疣取り。疣取りの願掛けの時、歌（何でも良い）を半分だけ歌い、治ったら全部歌うという。廻り番で1軒ずつ宿になる。米は各戸からかつては1升、今は5合ずつ集める。灯籠を3～4個立てる。夕方になって鉦を叩くと参拝者がやって来るので、団子を配る。新盆の家は「千両つける」といって、賽銭を持って盆提灯を納めに来る。

下手子林の「地藏祭り」。8月23日。合羽〈94〉、竹田〈95〉、中村〈96〉、笹良〈97〉の各字で一斉に実施する。供物はももとは団子であったようだが、近年は地区によっては赤飯のところもある。団子は地区によって作ったり、買ったりする。子供たちは各字の祭りを廻ってお供物ももらって歩いた。廻り番の駐在員（かつては神社総代）が中心となり、班長が手伝って行く。地藏様の掃除をして団子を作って供え、地藏様の前に莫塵を敷いて飲み食いをする。参拝の人には団子を配る。新盆の家では盆提灯と供物を持ってお参りし、提灯は地藏様に飾る。

上村君では上、下、新田、三田内、北三田内、南三田内、風張で行われる。上の「地藏様祭り」〈98〉。8月23日。子育て、歯痛止め、腹痛止め。2軒ずつ廻り番で当番をする。当番の家を宿にして全員が集まり、集めた米を粉に挽いて団子を作り、簡単な食事の準備をする。かつては団子用の米を各戸3合ずつ集めたが、現在は出来たものを買っている。この団子は薬だといっている。地藏様に提灯を灯し、重ね餅と団子を供える。お参りにやって来た人に団子を配る。下（東畑）の「地

蔵祭り」〈99〉。8月23日。子育て、疣取り。全戸参加が基本であるが、女性の居ない家では参加しない。廻り番で宿をし、宿に全員が集まって団子を作る。以前は各戸から米を集めていたが、ある家で地蔵様に大変御利益を授かったという家が負担するようになった。地蔵様に花を飾って団子を供え、参詣の人に団子を配る。これを食べると風邪を引かないという。新盆の家では盆提灯を納めに来る。この提灯は壊れるまで何年でも吊す。夜は宿で簡単に会食をする。新田の「地蔵様の祭り」〈100〉。8月23日（現在はそれに近い日曜日）。子育て。一軒ずつ持ちまわりで宿をするが、準備をするのは全員である。各戸から米を1～2合ずつ集めて餅を搗く。現在は金を集めて餅屋で作ってもらう。重ね餅と護符の餅（短冊状）を作る。灯籠を4個ほど描いて立てる。夕方になると鉦を叩いて知らせ、子連れの参拝者に護符を配り、その後また宴会となる。大きい重ね餅は全戸で均等に分ける。この地蔵はあの世への道案内をする「案内地蔵」ではないので、新盆の提灯は受け取らずに寺に納めてもらう。三田内の「地蔵祭り」〈101〉。8月23日。子育て、安産。廃寺跡にあり、堂の本尊は阿弥陀仏である。1軒ずつの廻り番の当番が宿をし、午後に女性が集まって団子を作って掃除をし灯籠を作り、夕方になると男性が集まり、堂で飲みながら参拝者に団子を配る。以前は各戸から米を集めたが、現在は粉を買って作る。北三田内の「地蔵様の祭り」〈102〉。8月23日。惣徳寺境内。廻り番で宿をする。宿に集まって団子を作って供え、灯籠を灯して線香をあげる。南三田内の「地蔵祭り」〈103〉。8月23日。子育て、安産。1軒ずつ廻り番で宿をする。費用は区費から出し、それに当番の家で少し足している。子供が描いた灯籠を数個立てる。女たちが宿に集まり団子を作り、夜になると男たちが地蔵様のところでお参りの人に団子を配る。団子を食べると風邪を引かないという。新盆の家では盆提灯を納めに来る。風張の「地蔵祭り」〈104〉。8月23日。惣徳院門前。廻り番の当番が宿になり、団子を作る。以前は各戸から米を集めて粉に挽いたが、今は金を集めて粉を買ってきて作る。灯籠を貼り、辻々に立てる。参拝者に団子を配るが、これを食べると風邪を引かないという。夜は宿で会食をする。

下村君では松の木、竹の内、永明寺で行われている。松の木の「地蔵様の祭り」〈105〉。8月23日。子育て。観音堂。祭り番の3軒が宿になって世話をする。各戸から米1合を集めて団子を作って供える。現在は賽銭と区費で粉を買って作る。参拝者に団子を配り、これを食べると風邪を引かないという。新盆の家では盆提灯を納めに来るが、これは寺に納めてもどちらでもかまわない。竹の内の「地蔵様」〈106〉。8月23日。この地蔵様は近くの北方用水馬洗い場に倒れていたが、この上で洗濯する婦人の夢に現れて以来祀られるようになったという。団子を作って配る。これを食べると無病息災という。永明寺の「地蔵祭り」〈107〉。8月15日。寺だけで祭る。「地蔵飯」という赤飯を供えるだけである。

加羽ヶ崎新田の「地蔵祭り」〈108〉。8月23日。子育て。1軒ずつ廻り番で当番をする。各戸から米を5合ずつ集め、粉に挽いて団子を作る。新盆の家では盆提灯を納めに来るが、この提灯はそのまま朽ちるままにまかせる。

砂山の上宿の「地蔵祭り」〈109〉。8月23日。愛宕神社境内。かなり早くに廃止となり、詳細は不明である。下宿の鳥山寺入口の地蔵は祭りは行われていないが、新盆の盆提灯だけは納めて吊してある。

今泉外ノ内の「地蔵祭り」〈110〉。8月23日。長光寺。当番2軒ずつが廻り番で世話をする。現在は団子を作って供えるだけである。新盆の家では盆提灯を納めに来る。

藤井上組では東、下藤井、出尾、上手、下手で行われている。東の「地蔵祭り」〈111〉。8月23日（現在はそれに近い日曜日）。役員が中心になって準備をし、団子を作って供えて配る。新盆の家では盆提灯を納めに来る。花火を上げたりもする。下藤井の「地蔵祭り」〈112〉。8月23日。子育て。当番10人が廻り番で行うが、準備から片づけまで3日間は必要なので大変である。各戸から粳米3合、糯米1～2合ずつ集め、集会所でハナ（竹串に紙製の花をつけたもの）、団子、重ね餅を作る。地蔵様に提灯や灯籠を灯し、夜になるとお参りの人に団子を配る。余興として、第二次世界大戦前は舞台を掛けて館林から頼んで芝居をやったが、現在は婦人会による踊りが行われる。新盆の家では盆提灯を納めに来る。翌日は当番が片づけをし、重ね餅を戸数分に細かく切ってハナを刺して各戸に配る。出尾の「地蔵様の祭り」〈113〉。8月23日。もと個人持ちの地蔵を地区で祀るようになった。以前は近所から米などをもらい当家で団子や餅を作って供えていた。現在は数人の年番が廻り番で世話をする。費用は以前は各戸米5合ずつであったが、現在はお金になっている。

地蔵様に灯籠や提灯をあげ、団子と重ね餅を供える。夜になるとお参りにやって来る人に団子を配る。新盆の家では盆提灯を納めに来る。上手の「地蔵祭り」〈114〉。8月23日（現在はそれに近い日曜日）。子育て。廻り番の組長が宿となり、そこに集まって準備をする。灯籠を貼り替えて2個立てる。餅を搗き、直径10cmほどの丸餅にして供え、参拝者に配る。これを食べると病気にならない、子供が丈夫に育つという。新盆の家では盆提灯を納めに来る。夜は宿に集まってあんころ餅やうどんを食べて会食をする。下手の「地蔵祭り」〈115〉。8月23日（現在はそれに近い日曜日）。子育て。七五三の帰りには地蔵様に参拝する習慣がある。地区が2組に分かれており、各組でそれぞれが廻り番で宿となって、そこに皆が集まり宿の家で提供された米1升で団子を作り、会食をする。灯籠を貼り替えて立てる。夕方になると各組から団子を持って地蔵様にお参りに来るので参拝者に団子を配り、子供には菓子も配る。新盆の家では盆提灯を納めに来る。

藤井下組では後流、前油・後油で行っている。後流の「地蔵祭り」〈116〉。8月23日。子育て。昔ゴゼが背負ってきた地蔵であったが、ここで行き倒れになったため祀ることになったという。当番は家順に1軒ずつ一年交代で、それに前年と翌年の当番が加わって3軒で祭りの世話をする。米を各戸から5合ずつ集めて宿で粉に挽いて団子を作っていたが、現在はお金を集めて米を買う。団子は7～8升作るので、大きな策2杯が山盛りになる。地蔵様に提灯をつけ、蠟燭を灯し、団子を供える。新盆の家では賽銭を余分に持ってきて、盆提灯を納める。夕方からお参りの人があるので、団子を配る。団子は無病息災の護符という。夜は宿で宴会となる。前油・後油の「地蔵祭り」〈117〉。8月23日。子育て。2軒ずつの廻り番の当番が世話をする。各戸からお金を集める。地蔵様に、提灯や灯籠を灯し、団子と重ね餅を作って供える。新盆の家では盆提灯を納めに来る。

北袋の「地蔵祭り」〈118〉。8月23日。子育て。北・中・南に分かれ、各地区から社人が出て世話をする。第二次世界大戦前までは天神社持ちの神田が6反あり、一部を社人が耕作し、一部を小作に出していたので、その米と上がりで費用を賄った。宿で団子を作って供え、参拝者に配る。新盆の家では賽銭を持って盆提灯を納めに来る。

発戸の「地蔵祭り」〈119〉。8月23日。長善寺。檀家の中の当番が団子を作って供え、お参りに来る人に配るだけで、他に何もしない。

尾崎の「地蔵祭り」〈120〉。8月23日。子育て。上・中・下に分かれ、各組が廻り番で当番となり、そのうちの一軒が宿になってそこに集まって準備をする。団子と餅を作り、参拝者に配る。餅は重ね餅と護符として配る四角い餅を作る。これを食べると風邪を引かないという。新盆の家では盆提灯を納めに来る。この提灯は後で焼く。

三田ヶ谷では平島、広川、中新田、上巢子、下巢子で行っているが、この地域では地蔵祭りを単独で行うのではなく、庚申祭りに合わせて行うのが特徴である。平島の「地蔵祭り」〈121〉。「地蔵観音祭り」ともいう。8月23日。庚申様と一緒に祀る。廻り番の当番3人が世話をする。供物の材料は当番が負担し、団子作りと赤飯作りに分かれて行う。ここに石尊様の灯明を7月27日～8月23日まで立てる。8月7日の「お盆ぶち」に蓮台寺に塔婆を頼み、23日に行つて墓に立て、その帰りに地蔵様にお参りして賽銭、線香をあげ、団子をいただいて帰る。新盆の家では盆提灯を納めに来る。広川の「春祭り」・「夏祭り」〈122〉。3月21日・7月23日（現在はそれに近い日曜日）。庚申様と一緒に祀る。6人の当番が廻り番で世話をする。夏祭りには庚申様の祭りとお獅子様と一緒にやるが、当番の者が適当な供物を供えるだけである。夜は料理屋で会食となる。中新田の「春祭り（庚申祭り）」・「夏祭り（石尊様）」〈123〉。3月21日・8月23日。庚申様、石尊様と一緒に祀る。春は神主を頼んでお祓いをし、御神酒をいただく。夏は石尊様の祭りとともに地蔵様も祭っている。7組に分かれて各組が廻り番で当番となるが、そのうちの1軒が廻り番で宿になる。宿（現在は農村センター）で準備をして会食をする。会費の他に役員が奉納された御神酒を売って費用の足しにする。巢子の「庚申祭り」。上巢子〈124〉と下巢子〈125〉でそれぞれ祀っている。3月21日（彼岸）・7月23日。当番1軒ずつ廻り番で宿（現在は農村センター）をする。夏はそれぞれで祭るが、春は合同で行う。

弥勒上新田・上力新田・三新田の「地蔵祭り」〈126〉。8月23日。かつては五人組が廻り番で行っていたが、現在は10班に分かれた班長が中心となって世話をする。ただし、宿はそれとは関係なく1軒ずつ廻り番で全戸に廻ってくる。以前は米を集めたが、現在は各戸からお金を集めている。重ね餅を作って供える。夜は集会所で宴会をし、カラオケをやる。餅は翌日切つて二切れずつ全戸に配る。

日野手新田の「庚申祭り」〈127〉。7月17日。庚申様を中心に地蔵様やさまざまな石仏と一緒に祀られている。この祭りに地蔵様も一緒に祭る。当番は仕事が手を離れて余裕のある年配者のいる家で引き受ける。以前は各戸から米を集めたが、今はお金になっている。団子と赤飯を作って供える。この団子を食べると病気にならないという。神主に拜んでもらう。

騎西町

騎西の町内では、地蔵尊が元町（一丁目）、仲町（二丁目）、新田（三丁目）とそれぞれ別に3基祀られている。ただし、新田にはもともと地蔵がなかったため、近隣と同じようにお祭りをしたということになり、大正期末に浄楽寺墓地にあった地蔵尊を門前に安置して祭りを始めたという。3地区の「地蔵様の祭り」は日程が重ならないように、新田〈128〉が8月23日、仲町〈129〉が24

日、元町〈130〉が25日と一日ずつずらしている。祭りの世話は廻り番で各地区とも上・下から行事という当番が出て行く。当日は地藏様の掃除をして提灯を両脇に下げ、道路沿いや各家の軒先には灯籠を立てる。地藏様に花、菓子、果物などの供物をあげ、当番が地藏様の所に詰めて、灯明や線香を上げて、打ち菓子などを作って地藏様に上げてからお参りの人に配る。夜になると鉦を叩いて祭りを知らせる。第二次世界大戦前は地藏様の前で盆踊りをしたり、映画会なども行ったという。

内田ヶ谷では寄居、上郷、中郷で行われている。寄居の「地藏様」〈131〉。8月23日。子育て。祈願のお礼によだれ掛けや帽子をあげる。6人ずつ一年交代で当番をする。各戸を廻ってお金や米を集め、当番のうちの軒を宿にして団子を作る。地藏様に提灯や灯籠を吊るして果物などの供物をあげ、前に縁台を出す。夕方になって太鼓を叩くとまず子供たちが来るので団子を配り、さらに夜になってまた太鼓を叩くと今度は近所の大人たちが三々五々やって来るので、団子を配る。上郷の「地藏様」〈132〉。8月23日。各戸から集めた米で団子を作って地藏様に供え、大福寺の住職が読経をする。参拝者に団子を配る。終わると農村センターで会食をする。中郷の「お地藏様の祭り」〈133〉。8月23日。疣取り。塩をかけると疣が取れるという。個人持ちのため、その家ですべての世話をしている。団子は以前は大ショウギいっぱい作った。各家では盆提灯をぶら下げてお参りに来て地藏様の脇に作った竹竿に掛け、帰る時にまた持って帰る。灯明や賽銭をあげ、団子をいただく。お参りの後、当家の縁側でカラオケをしたり、一杯飲んで帰る。

外田ヶ谷新田の「お地藏様」〈134〉。8月24日。当番は家順に2軒ずつが一年交代で行う。地藏様の両側に灯籠を立てる。近所の人がお参りに来てお賽銭をあげると、みたらしの串団子を配る。

西ノ谷の「地藏の縁日」〈135〉。8月23日。疣取り、子育て。久伊豆社境内。昔盗まれたことがあったが、地藏様が気張ったらにっちもさっちも行かなくなり、置き捨てたものを村人が取りに行ったという。当番は5組が毎年廻り番で行う。灯籠を立て、子供のいる母親は団子を供え、子供の健康を祈る。

上崎では三重堀、相の道、前原で行われている。三重堀の「地藏祭り」〈136〉。「地藏講」ともいう。8月1日。もとは8月23日であったが、晩秋蚕の養蚕と重なるため8月1日にずらした。子育て、夜泣き止め。もともと個人持ちであったためその家で世話をしていたが、耕地整理で地藏様の位置が隣家の敷地になってからは、両家で一年おきに交代で世話をするようになった。ただし祭りは各戸から参加する。各戸から糯米と粳米のどちらかをもち寄って、重ね餅、団子、うどん、あんころ餅を作って供え、灯籠を立てる。ただし、現在は仕出し屋の料理を供えている。参拝者に団子を配る。宴会も両家が交代で受け持っていたが、近年は総合センターを借りてやるようになった。相の道の「地藏さん」〈137〉。7月23日。子育て。地区持ちの地藏尊であるにもかかわらず、以前は祭りの世話を隣家でやってきたが、途中から当番でやるようになった。当番は家順に廻り持ちで行う。地藏様に大きな灯籠を出し、各家毎に小さな灯籠を門口に掲げる。地藏様に灯籠、花、重ね餅、団子を供える。参りに来た人に団子を配る。昔は露店が出るほど賑やかであったという。前原の「お地藏様の祭り」〈138〉。7月20日。地藏様に団子を供える程度で、特に何もしない。

下崎上の「地藏様」〈139〉。7月23日。疣取り、水難除け。かつては世話人の8人が行ったが、現在は氷川神社の当番が兼任している。灯籠を立て、太鼓を出すと子供たちが叩いた。宿で餅やう

どんなどの用意して飲食をし、かつては庭に仮舞台を作って若衆が踊りや歌を披露したりもした。

戸崎では名倉、上三班、上四班で行っている。名倉の「地蔵祭り」〈140〉。8月23日。子育て。6班あり、かつてはそのうちの第4班だけで世話をしていたが、近年になって6班全体の神社当番が出て行くようになった。以前は第4班の各戸から1升ずつ米を出し、粉に挽いて団子を作った。団子はお参りに来た人に経木で包んで配った。地蔵様には灯籠を吊して線香をあげる。上三班の「地蔵講」〈141〉。8月23日。子育て。4軒ずつの当番が祭りの世話をする。各家から米1合ずつ集めて粉に挽いて団子を作る。第二次世界大戦前までは大尽の家が5、6軒あり、団子などをたくさん作って供えたので、他の家の者たちはそれをいただいて帰るだけだったが、戦後になってからは今のように全戸から集めるようになり、現在は出来あいの団子を買っている。地蔵様に提灯を下げ、寺の住職が読経し、お参りに来た者はオサゴをあげたり線香を焚く。重箱で団子を供えておき、来た人に配ったり皆で分けた。当番の家を宿として集まり、五目飯、豆腐汁などで昼食をとったが、現在は近くのレストランですませている。上四班の「地蔵様の縁日」〈142〉。「地蔵様の祭礼」ともいう。8月23日。疣取り。当番は家順に4人ずつで、地蔵様に団子を作って供える。お参りの人は線香を上げ、団子をいただく。以前は灯籠を立てた。お参りの後、地蔵尊前の家を宿として宴会をしていたが、現在は料理屋を使用している。

牛重下の「地蔵祭り」〈143〉。8月23日。子授け、子育て。疫病で亡くなった人のために造立したものである。当番は2軒ずつで行い、会費を集めて祭りの世話をする。地蔵様のまわりに各家から灯籠を持ってきて立て、地蔵様の前に莫塵を敷いて宴会する。昔は団子を作って供えたという。

日出安の「地蔵祭り」〈144〉。8月23日。子育て。当番が祭りの世話し、各戸から米3合ずつ集めて粉に挽いて団子を作って供える。住職が読経し、終わると寺で会食をし、参加者に団子を分ける。

中ノ目の「地蔵祭り」〈145〉。8月23日。「地蔵講」が組織されている。地蔵様に灯籠を灯し、団子を作って供える。宿では餅やうどんなどの供物を用意して飲食をする。

上種足では七区五軒組と榎戸で行われている。七区五軒組の「灯籠」〈146〉。8月23日。子育て。池でなくなった子供の供養のために造立した地蔵という。個人持ちのため、当家で祭りの世話をすべてする。団子を3～4升作り、近所の人がお賽銭を持ってお参りに来ると配る。花や線香を供える。昔は子供たちが大勢来たので手に団子を4、5個ずつ持たせたが、今は子供も来ないのでバックに入れてお参りの人に持たせている。当家が新盆だった場合のみ地蔵様に盆提灯を納めている。榎戸の「地蔵祭り」〈147〉。8月22日。子育て、夜泣き止め。6軒ずつの当番が地蔵様の掃除をして供物をあげ、まわりにいくつか灯籠を立てる。夕方になると太鼓を叩いて人呼びをし、お参りの人には赤飯を一箸ずつあげた。地蔵様の前の家で一杯飲む。昔は近所の人がたくさんやって来て座敷でお茶を飲んだので、一日中座敷は貸切り状態であったという。

中種足では三区砂組に地蔵尊が二体あり、一体は地区持ちで、もう一体は個人持ちでありそのイッケで祀っている。三区砂組（地区持ち）の「灯籠」〈148〉。7月31日。子育て。5班に分かれていて、各班が交代で当番をやる。灯籠をあげて線香を焚く。昔は子どもが太鼓を叩いたり、また芝居や浪曲をやったこともある。三区砂組（個人持ち）の「灯籠」〈149〉。8月23日。疣取り。米と線

香を供えて願をかけ、叶うとお礼にオケサ（櫛状の二枚重ねの袈裟）を奉納する。萩原イッケで祀る地蔵尊のため、祭りは萩原家ですべて面倒を見てきた。灯籠をあげ、オケサを地蔵様に着せ、団子、うどん、線香、花などを供える。この団子は疣取りに効くという。昔は近所の子供がみな集まって来たので、飴や煎餅などの菓子を与えた。

大利根町

中渡の「地蔵様」〈150〉。8月20日。稻荷神社脇の観音堂境内。5組に分かれ、組順にカマ番と呼ばれる当番が一年交代で行う。かつては各戸から米を集め、カマ番の家を宿にして団子を作って供えたが、今はやっていない。前日に「地蔵尊」と書いた灯籠を貼り替え、周囲に2、3個立てる。当日の朝、掃除をして参拝者を迎える。

北佐波の「地蔵様」〈151〉。4月23日・8月23日・12月5日の「三夜」（現在は毎月23日）。延命。老女が集まる。とくに組織はなく前の家がずっと世話をしてきたが、平成7年から組織を作ってやるようになった。地蔵様にあがる賽銭を「地蔵様会計」とし、毎月の集まりの時の費用にする。毎月の行事当日は、当番が8時半に集まり掃除をし、9時から般若心経や念仏を唱え、千羽鶴を折る。10時から茶を飲み、昼飯を食べる。「三夜」には各戸で作った団子を持ち寄ったが、現在は串団子を買っている。西浄寺の住職に読経に来てもらう。百万遍（念仏と数珠廻し）をする。

間口の「地蔵様」〈152〉。8月23日・11月23日。子育て。子どもが生まれるとよだれ掛けを供えたりする。地蔵様を祀っているのは組単位ではなく、近くの十数軒で祀っている。もともとは特定の家で世話をしていた。餅を搗いて供える。近くの寺の住職が来て経をあげる。かつては盆踊りやカラオケ大会が開かれた。

新川通の「お地蔵様の祭り」〈153〉。7月23日。法輪寺境内。大正年間に不思議なことが続いたので、先達にみてもらうと地蔵様が浮かばれないからといわれ、馬捨て場から掘り出したものである。当番が世話をする。団子を作って供えるが、現在は買っている。かつては宿で、現在は集会所で会食をする。また地元の「新盛劇団」による素人芝居の奉納があったが、昭和22年の洪水で衣裳が流れたためやらなくなった。

阿佐間新田の「地蔵様」〈154〉。8月23日。子育て。「いたずら地蔵」ともいわれ、地蔵様の前を通りかかるとよく人が転んだが、これは地蔵様がいたずらをしたからだという。春先には馬も驚いて暴れるため移転させた。今は桜の木があるので「桜地蔵」という。農事組合が3組あるので、その順で当番をする。第二次世界大戦前は村の有力者が米を集めて2樽ほど甘酒を掻き、参拝者に振る舞った。またかつては村人による素人芝居があり、親戚を呼んで振る舞い、大変賑やかな祭りであったという。費用は賽銭でまかなっている。灯籠は以前より数が減ったが、今でも30個ほどは立てる。提灯を下げて蠟燭を灯す。団子はかつては作っていたが、今は買って来て供える。金乗院の住職が読経し、念仏講の人が念仏を唱える。終わると脇の集会所で夕食を食べる。新盆の家では盆提灯を納めに来る。

北平野の「宵晩」〈155〉。8月23日。地蔵堂。古利根川を流れてきたのを拾って祀ったという。第二次世界大戦前までは祭りを行っており、老女が念仏を唱え、団子を供えた。

琴寄前樽場の「お地蔵様の祭り」〈156〉。4月23日・8月23日。子育て、疫病除け。元は墓地に

あったが、明治初期に流行り病が蔓延した時にお地藏様のせいだということになり、移動した。元の地には他の石地藏がまだ残されている。その後いったん元に戻したが、脇の用水の移動に合わせて現在地に移転した。祈願のお礼には鈴につける紅白の紐を奉納した。毎月1・15日には老女が集まり、草取りや念仏の練習をする。地区が上・中・下に分かれ、各組がカマ番として一年交代で順に祭りの世話をする。前日に集会所で灯籠貼りをし、15、6個を地藏様の通りに立てる。灯籠は以前は栗橋の荒物屋に頼んでいたが、昭和前半頃から子供たちに描かせている。提灯は堂のなかに両側に吊す。以前は当番の家を宿にし、費用はお金を各戸から集め、饅頭屋に紅白の打菓子の供物を頼んで全戸に配った。集会所で昼間会食をし、鉦を叩いて数珠を廻して念仏を唱える。正月には各戸から重ね餅を供え、餅の大きい方を置いて小さい方を持って帰る。大きい餅はかつては普段地藏の守りをしてきた隣家にやったが、今は皆で分けている。

松永新田の「地藏様祭り」〈157〉。8月23日。古くから3軒の家が交代で宿となり、中心になって世話をしてきたが、現在は集会所でやっている。各戸から玄米5合ずつ集めて、白米にして粉に挽いて団子を作った。今はお金を集めて団子を買ってきてバックで配る。これを食べると病気にならないという。午前中集まって夕方に数珠廻しをする。「なんまいだんご（南無阿弥団子）」といながら廻し、大きな珠のところ廻ってくると体の痛いところにあてると治るという。新盆の家では盆提灯を納めに来る。

川里村

屈巢天神前の「地藏様の祭り」〈158〉。7月23日。子供の疫病除け。円通寺門前。第二次世界大戦後に祭りを止めたら疫病が流行ったため、復活したという。宿は葬式を出した家が順番であたる。7月20日を「物貰い日」といって各戸から麦を集めて石臼で挽き、23日に宿で真っ黒な麦団子を作った。団子は胡麻味噌で絡めて地藏様に供える他、飯台に入れて円通寺にも供える。この団子を寺の周辺の人たちが貰いに来た。昭和40年頃から麦の団子が米の団子に変わった。昼に混ぜ御飯、夜に普通の御飯を食べる。夕食後、寺で十三仏を唱え、地藏様にお参りして解散する。

西部向領の「地藏様」〈159〉。8月23日（現在はそれに近い日曜日）。かつては団子を作って地藏様に供え、お参りに来た子供たちに配った。現在は各戸が参加して会食するだけである。

新井の「地藏様の祭り」〈160〉。8月23日。各戸から米を集め、年番が団子を作って参拝者に振る舞った。灯籠を立てる。以前は子供が大勢集まったという。かつては川に栈敷を架けて芝居などが行われた。

大里郡では熊谷市を中心に、その周辺部の深谷市、岡部町などに分布している。

熊谷市

星川二丁目の久山寺の「地藏祭り」〈161〉。8月24日。身代わり。灯籠を道の両側に数十基立てた。露天商が並び、漫才や源太の小屋がかかり大変賑やかであったというが、すでに行われていない。

上石原の真宗寺の「地藏会」〈162〉。8月24日。子育て。かつては乳の出がよくなるように、白布で綿をくるんだ乳房や、地藏の姿が描かれた絵馬などが奉納されたという。

広瀬の「地蔵祭り」〈163〉。7月23日。廻り地蔵で、円福寺持ちで普段は地区内を巡行しているが、祭りには寺に帰る。広瀬上宿の「地蔵の縁日」〈164〉。8月25日（後に8月13日に変更）。提灯を灯して、団子を作ってお供えする。

大麻生では三沢と中廓洞木で行っている。三沢の「お祭り」〈165〉。7月24日。子育て。近所の人が集まり、団子や御馳走を作って地蔵様に供え、灯籠をあげる。かつてはお札の版木があり、これを刷って各戸に配って厄除けとしたという。中廓洞木の「お祭り」〈166〉。4月23日・10月23日。「日限り地蔵」といい、日限を切ってお願ひするとその日までに願ひ事が叶うという。近隣4軒で祭り、米を持ち寄って団子を作って供え、灯籠を貼り替えてあげる。

三ヶ尻では林、久保、横町で行われる。林の「地蔵祭り」〈167〉。12月24日。子育て。かつては上・中・下の全戸で年番の家に集まって御馳走をいただいてから団子を作っていたが、第二次世界大戦後は各廓ごとに分かれて祭りをしてお参りするようになった。年番が各戸から米二合（昔は4合）ずつ集める。当日は各戸一人ずつ女性が年番の家に集まり、年番の家で用意した御馳走をいただき、米を挽いて団子を作る。団子を地蔵様に供え、鉦を叩いて地蔵和讃を唱える。お参りの人は賽銭をあげて団子をいただく。これを食べると一年間風邪を引かないという。久保の「地蔵祭り」〈168〉。12月4日。難除け。東・西の廓から総代と前総代が各1名ずつ参加するが、すべて女性である。各戸から米を集め、総代の家で煮物などを作り寿司を買い、団子を作る。地蔵様の前に敷物をし、団子を供えて線香をあげ、地蔵和讃を唱える。その後総代の家で御馳走をいただく。横町の「地蔵祭り」〈169〉。12月4日。子育て。各戸から茶碗一杯ずつの米を集め、総代の家で大団子と小団子を作った。地蔵様の前に菫を敷いて、そこで女性たちが鉦を鳴らして地蔵念仏を唱え、たくさんの団子を降らすように撒いてそれを拾って食べたというが、第二次世界大戦後は行われなくなった。

久保島では新屋敷と窪関所で行っている。新屋敷の「お祭り」〈170〉。7月23日。板碑の地蔵尊で、全戸で出て清掃して団子を作って供える。灯籠を貼り替え、各戸の門前にも立てる。夕方に火が灯ると子供たちがやって来るので団子を配る。窪関所の「地蔵祭り」〈171〉。かつては祭りがあったというが、詳細は不明である。

小島の「地蔵祭り」〈172〉。8月24日。東西の入口に一体ずつ地蔵尊が祀られており、村に悪病が入らないよう守っているという。上・堀の内・下の各廓から2名ずつサシ番が出て世話をする。灯籠を貼り替え、団子を作り、お参りの人に団子や菓子を配る。人々は東西両方の地蔵に参る。

玉井では上の茶屋と高柳で行われている。上の茶屋の「地蔵祭り」〈173〉。7月23日。子育て。当番が各戸から米を集め、全員で準備をする。米を挽いて団子を作り、灯籠を貼り替えて絵を描き、菓子を買う。地蔵様の前で太鼓を叩き地蔵和讃を唱える。太鼓を叩きながら前年の当番が今年の当番に申し送りをする。その後公民館で会食をし、子供たちには菓子を配る。高柳の「地蔵祭り」〈174〉。7月23日。夜泣き止め。地蔵堂境内。赤の帽子、涎掛け、襷を供えて祈願し、治ると白のものをお札に奉納する。かつては高柳全体のサシ番が世話をしたが、現在は13班に分かれそこからサシ番が出る。提灯や灯籠を道に立て、各戸でも灯籠を飾る。灯籠は全部で100個以上にもなる。灯籠には「地蔵尊」と大きく墨で書き、上部に赤で三本の横の波線を描き、朱色で散らし模様をつけ

るのが決まりで、これが雷除けになるといわれた。両側には墨で祭りの年月日と奉納者の名前を書いた。しかし、去年から描き手が変わってこうしたふうもなくなり、川柳と絵を描いたものになっている。午前中に準備をし、午後から祭りとなる。先達を中心に太鼓を叩きながら光明真言を31回唱える。終わると堂内で会食をする。

東別府北の「お祭り」〈175〉。7月25日。「お手引き地蔵」といい、早く死ぬるとの信仰がある。かつて祭りがあったというが、詳細は不明である。

西別府足利の「地蔵祭り」〈176〉。かつて祭りがあったというが、詳細は不明である。

上中条では竹の内大竹、上西の門、北別方寺、荒宿、中島の各字で行われている。竹の内大竹の「地蔵祭り」〈177〉。3月24日・8月24日。子育て。春は男性、夏は女性の祭りである。前・後の組に分かれ、そこから各1人ずつの用番（当番）が世話をする。春の祭りでは、男性が前日の23日に全戸で灯笼の貼り替えと地蔵様の清掃をする。24日は後の用番の家を宿として地蔵様の掛軸を床の間に吊して会食をする。夏の祭りでは、春と同様に23日に準備をし、さらに団子を作る。24日は今度は前の用番家を宿にして、掛軸を掛け線香をあげ、真言を唱える。終わると女性だけの宴会となる。上西の門の「地蔵祭り」〈178〉。8月23日。子育て。全戸が集まって清掃をし、灯笼の貼り替えをして団子を作る。地蔵様に豆腐と団子、果物を供え、線香をあげ、用番の家で用番が用意した精進料理にうどんで会食となる。北別方寺の「地蔵祭り」〈179〉。8月23日。子育て。一軒で2個ずつの灯笼を立て、地蔵様には大きな灯笼を一個つける。当番の家に全戸が集まって準備をする。米を5合ずつと料理の材料を持ち寄って、団子と精進料理を作る。地蔵様に供えものをし、線香をあげ、終わると当番の家で会食をする。荒宿の「地蔵祭り」〈180〉。8月23日。灯笼を貼り替え、団子を作って供える。中島の「地蔵祭り」〈181〉。8月23日。子育て。用番を中心に全戸が出て準備をし、灯笼の貼り替えをし、団子を作って供える。子供たちには菓子を配る。

奈良では向河原新田、葉草で行われている。向河原新田の「地蔵祭り」〈182〉。8月23日。上・下・向河原の廓に分かれ、そのうちの上・下にそれぞれ地蔵が祀られている。祭りには向河原の全戸と上・下の班長が世話をする。灯笼を貼り替え、蠟燭を灯し、お参りに来た子供たちには菓子などを配る。集会所で各人が持ち寄った料理で会食をする。葉草の「地蔵祭り」〈183〉。3月12日・4月12日。火伏せ。上・下・新田に分かれ、各廓から当番が出て世話をする。火伏社社の祭りと一緒に行く。お百度を踏んで火伏せの祈願をする時に地蔵様のお参りをする。

中奈良では堀の内と馬場で行われている。堀の内の「地蔵祭り」〈184〉。7月23日・8月23日（現在は8月のみ）。疣取り。疣をこすった指で地蔵をこすると疣が取れるという。東・西の各廓から各1人の当番が出て世話をする。地蔵堂に提灯を吊し、各家でも灯笼を立てる。饅頭や赤飯、団子を作って供えて鉦・太鼓を叩く。また版木で刷ったお札を各戸に配り、これをヒイラギにつけて戸口に置いて魔除けとする。馬場の「地蔵祭り」〈185〉。8月23日。子育て。新田・馬場の各廓から当番が2人ずつ出て世話をする。30個ほどの灯笼を貼り替えて立てる。各家で地蔵に団子や赤飯、饅頭を作って供え、子供の健康を祈る。お参りの子供たちには菓子を配る。

柿沼では遠新田、中、今泉で行われる。遠新田の「地蔵祭り」〈186〉。8月24日。子育て。当番2人が世話をする。20個ほどの灯笼を貼り替え、団子を作る。当番の家に各戸から料理を作って集

まり、会食をする。中の「地蔵祭り」〈187〉。8月24日。疣取り。土団子を供えて祈願し、治ると米団子を供える。用係2人で世話をする。地蔵堂の清掃、提灯の貼り替えをし、各戸から米を集めて粉に挽いて団子を作る。地蔵真言を唱え、隣接する常宿の家に集まって、酒と野菜の煮付けでの会食となる。今泉の「地蔵祭り」〈188〉。8月24日。用係2人で世話をする。各戸から男たちが地蔵堂に集まり、清掃、灯籠の貼り替えをし、団子を作る。団子を地蔵様に供えて、鉦・太鼓を叩いて地蔵真言を唱える。夕方から女たちが用係の家に集まり、持ち寄った野菜の煮付け・饅頭・赤飯・ぼた餅などで会食をする。

代の「地蔵祭り」。8月24日。子育て。上宿〈189〉、下宿〈190〉でそれぞれ地蔵尊を祀っているが、祭りの夜は上宿から下宿まで続く一本道が灯籠で灯される。それぞれの廓で同様の祭りが行われる。用番が各戸から集めたお金で材料を買い、用番の家に廓の人が集まって粉を挽き団子を作る。地蔵様を掃除して灯籠を貼り替え、団子を供える。供養が終わると、用番の家で持ち寄った料理で会食となる。子供たちには団子や菓子を配る。

平戸川端の「地蔵祭り」〈191〉。8月24日。子育て。祭り用番の5、6人と永代祭事2人で世話をする。地蔵様を清掃し、団子を作り、50個の灯籠を貼り替えて立てる。かつては芝居や源太、漫才がかかって賑やかであったという。

久下では堤下と八丁で行われている。堤下の「地蔵祭り」〈192〉。8月24日。「権八地蔵」、「物言い地蔵」ともいう。中・上一・上二から各2人の年番が出て世話をする。地蔵堂の清掃をし、30個の灯籠を灯し、版木でお札を刷り、団子を作る。お参りの人にはお札と団子を渡す。八丁の「地蔵祭り」〈193〉。8月24日。上・下から各2人ずつ用係が出る。各戸から賽銭を集め、地蔵堂を清掃して灯籠を貼り替え、菓子を買う。お参りの子ども達に菓子を配る。各家では団子を作って地蔵様に供える。

佐谷田西の「地蔵祭り」〈194〉。8月24日。子育て。上・下から2人ずつが年番になり、祭りの世話をする。道筋に灯籠を立てる。各家では団子を作って供える。

村岡北西原の「地蔵祭り」〈195〉。7月（以前は8月）30日。難除け。当番が各戸から米を3合ずつ集め、当日の朝全戸が地蔵様の所有者である小林家に集まり、米を挽いて団子を作ったり、料理を作る。10個の灯籠を立てる。地蔵様に火を灯し、線香をあげ、料理を供え、夕方から小林家で会食をする。

新堀新田の「緑日」〈196〉。7月24日。

平塚新田上の「地蔵祭り」〈197〉。3月23日・9月23日（後に10月3日に変更）。子育て。世話役4人が世話をする。各戸から2合ずつ米を集めて団子を作り、供える。5個の灯籠を地蔵様のまわりに立て、花を飾り、線香をつける。

平塚新田下の「地蔵祭り」〈198〉。9月23日。子育て。個人持ちで、「赤地蔵」といい紅殻を塗って祈願し、叶うとまた紅殻を塗る。山の下・下から各1人ずつ用番が出て世話をする。灯籠を貼り替え、地蔵を清掃する。お参りの子供たちに団子を配る。地蔵尊の所有者宅で精進料理と赤飯で会食をする。団子や料理やはすべて当家で用意している。かつては文殊寺の住職が読経にきた。

万吉では上伊勢原と東部で行われている。上伊勢原の「地蔵祭り」〈199〉。8月23・24日。子育て

て。団子を作って供えたが、すでに行われていない。東部の「地蔵祭り」〈200〉。9月23日。疣取り。近所の者みなで準備をする。提灯を貼り替え、団子を作る。夕方になって灯籠に明かりが灯ると、お参りにやって来る。団子を紙にくるんで地蔵様に供える。子供たちには菓子を用意し、団子と一緒に配る。

今井の「お地蔵様のお廻り」〈201〉。浄業庵。廻り地蔵で、1月と8月の16～24日に無事息災を祈願して各戸を廻る。新井の廓の者が世話役をする。初日は庵で地蔵様に団子を供え、実相院住職による法要がある。その後、地蔵尊を入れた厨子を担いで幟を立て行列して各家を順に廻り、最後にその日の宿に運び入れ、宿では行列の人に団子と赤飯を振る舞う。夜になると地区の者が宿に集まって鉦・太鼓で「ドンガン念仏」と呼ばれる念仏をあげる。翌日から各耕地の宿を順に廻って歩く（註7）。

深谷市

石塚の「地蔵祭り」〈202〉。7月24日。子授け。「北向地蔵」といい、かつては東新田と西新田の両地区で祀っていたが、いつの頃からか石塚全体で祀るようになった。月代わりの月番が5廓から一人ずつ出て世話をする。地蔵様の前には大きい灯籠を、周囲には小さい灯籠を灯し、炭酸饅頭や赤飯を供える。光明寺の住職が各戸に配る供物を持ってきて、地蔵様に経をあげる。かつては夕方に会食をしていた。

新井西新井の「地蔵祭り」〈203〉。8月24日（現在はそれに近い日曜日）。子育て。自治会の会長、副会長、会計、当番が出て世話をする。費用は隣組の寄附や賽銭でまかなう。地蔵様のまわりに提灯を下げ、団子や赤飯を供える。専光寺の住職が来て経をあげ、参拝者には団子を配る。

原郷木之本の「地蔵祭り」〈204〉。7月24日。疣取り、子育て。18班に分かれ、各班1名ずつの廻り番の幹事が出て世話をする。費用は賽銭と以前に堂の修理をした時の寄附の残りでまかなう。小さい灯籠を道沿いに立てる。参拝者にはお札と団子を供物として配る。お札は「木之本地蔵尊」の文字とお姿を刷ったものである。団子はもともとはなかったが、近年篤志家が6個入りのものを用意して配るようになった。

新戒中新戒の「地蔵祭り」〈205〉。10月23日。子育て。栃木県の岩舟地蔵を勧請したという。廻り番の当番4人が世話をする。供物として団子、果物、菓子などをあげ、大林寺の住職が経を読む。昭和30年くらいまでは田舎芝居をやったが、現在は婦人会や老人会が歌や踊りを奉納する。終わると住職、当番、自治会の役員で会食をする。

高島の「地蔵様」〈206〉。7月23・24日（現在はそれに近い土・日曜日）。子育て、病除け。安養院境内。廻り地蔵。「おへち地蔵」といい、かつては群馬県などからもたくさん借りにやってきた。廻り番の月番が世話をする。高島は100軒ほどあり、月番は全戸を月別に振り分けているが、7月は天王様の行事もあって一番大変なので、この月には50軒ほどの月番を割り当てている。費用は各戸からの賽銭でまかなう。子供たちが寺の参道に自分たちで描いた灯籠を立てる。朝、安養院の住職が経をあげ、二人ずつ交代で地蔵様を担いで各家を廻った。現在はリヤカーに乗せて廻る。各家では賽銭をあげ、お札とお供物（数個の駄菓子）をいただく。この日は子供会も出て、綿菓子や焼きそばなどの露店が出る。利根川対岸の群馬県尾島町方面からの参詣もあるという。

国斉寺の「地蔵祭り」〈207〉。8月23日。国斉寺。廻り地蔵で、各家を巡って毎月の23日には寺に帰る。各家の廻りの方法は、前の宿の人が次の宿の家まで地蔵尊を運び入れ、迎えた宿では床の間に地蔵様を据えて精進料理を供えるが、家によっては団子や赤飯が加わったりもする。灯明、線香をあげ、真言を唱える。地蔵祭りには寺で法要をし、地蔵真言を50回唱える（註8）。

起会の「地蔵祭り」〈208〉。かつて存在したというが、詳細は不明である。

中瀬伊勢島の「地蔵様」〈209〉。吉祥寺。

明戸本郷の「お地蔵様」〈210〉。毎月24日。商売繁盛、子育て。個人持ち。かつては荷車を曳いて商売をする前には拝んでから出かけないと売れなかったとあって、必ずお参りに来たものだという。個人で祭りをし、団子や初物を供えたが、すでに行っていない。

大塚の「地蔵の縁日」〈211〉。毎月24日。子育て。参詣者が団子を供える程度である。

西島の「地蔵祭り」〈212〉。4月24日。「水掛け地蔵」、火伏せ。大円寺。植木市が立つ。

岡部町

山河の「地蔵祭り」〈213〉。旧8月23・24日。夜泣き止め。昌楽寺。「唐辛子地蔵」といい、子供の願かけなら何でも効き、唐辛子を木のまま供える。病弱な子供がいると地蔵様の着物を借りて行き、良くなるともう一枚縫って返しに来る。5、6人のサシ番が世話をする。団子を作って供える。以前は櫓を組んで盆踊りがあり、露店もたくさん出て賑やかであったという。

榛沢下の「地蔵祭り」〈214〉。8月24日。子育て。地蔵尊の腹掛けを借り受けて願をかけ、叶うと新しいものを作って供える。

北葛飾郡では幸手市、栗橋町、杉戸町に分布している。

幸手市

松石の「地蔵様の縁日」〈215〉。8月23日。安産、子育て。残光寺境内。お産が軽くすむように上げられたお灯明の燃え残りをいただく。当日は当番が飾りつけをし、各自が参拝する程度である。

高須賀の「地蔵様の縁日」〈216〉。8月23日。延命。昭和55年に常福寺に移転。檀家が参加し、住職が読経して供養し、終わって集会所で会食をする。当番が飾りつけをし、各人がお参りする程度である。

下川崎道口の「祭り」〈217〉。8月23日。子育て。当番が世話をする。子どもが生まれた家では酒を奉納する。

九郎右門の「地蔵様お斎」〈218〉。1・2・3・6・7・9・11・12月の24日。当番が世話をす。集会所に地蔵様を安置し、各戸から米1合を持ち寄って混ぜ飯を作り、皆で食べて念仏を唱える。

栗橋町

本田の「地蔵祭り」〈219〉。8月25日。稻荷神社境内。7組に分け、一年1組ずつの当番が世話をす。灯籠を飾る。昔は浪曲大会があったが、今はカラオケを行う。

河原代の「地蔵様の縁日」〈220〉。8月23日。旧福寿院。荒堀・上分・下分が交代で当番をす

る。お蠟代といってお金を集め、昔は芝居をかけたが、現在はカラオケになっている。

高柳島水深の「地蔵祭り」〈221〉。8月24日。子育て。代参講の当番が一年交代で世話をする。毎月1・15日には掃除をする。当日は提灯を飾り、幕張りをする。地蔵様には花をあげる程度である。参詣者の接待所は近くの会館で行い、カラオケなどで賑わう。夕方は子供たちが花火で遊ぶ。かつては浪曲なども行った。

小右衛門上組の「地蔵講」〈222〉。9月23日。先祖供養。川通神社境内。

北広島の「地蔵堂の祭り」〈223〉。2月23日・7月23日（現在は7月のみ）。子育て。地蔵堂。地区を7班に分け、各班から当番が2人ずつ出て、区長などの三役が加わって世話をする。費用は灯明料と賽銭でまかなう。20日に準備をする。地蔵様に供える大きい重ね餅と、参詣者に配る直径5cmほどの丸餅を搗く。地蔵堂には個別に重ね餅を奉納する家もあるため、堂内には20ほどの重ね餅が上がっている。密蔵院から住職が来て読経する。参詣者には地蔵様のお札、護符の餅、団扇、手拭いを配る。お札は木版で、上部に「聖徳太子御作」下部に「廣嶋村」の文字、中央に地蔵尊の立像と朱印がある。このお札は各家で適当な所に一年間貼る。夜はカラオケ大会で賑やかである。翌25日は「お供え崩し」といい、各家で供えた重ね餅はその家で持ち帰り、当番の上げた重ね餅は切り分けて各戸に配る。これを食べると風邪を引かないという。

杉戸町

才羽では上蓮河原、上五反沼、上町張陣屋で行われている。上蓮河原の「地蔵様の縁日」〈224〉。9月24日。子育て。源長寺。上五反沼には「上の地蔵堂」〈225〉と「下の地蔵堂」〈226〉があり、それぞれ「縁日」が7月24日に行われる。子育て。上は並塚の前谷組と合同で行っている。灯籠型の子供神輿が出たこともある。上町張陣屋の「地蔵様」〈227〉。8月24日。「首なし地蔵」といい、並塚の前新田と合同で行い、廻り番で宿をして宴会をする。

堤根上本村・下本村の「地蔵様の縁日」〈228〉。5月24日。九品寺門前。「寛保地蔵」といい、第二次世界大戦後に村で赤痢が流行し、なにかの祟りだとさわいでいると、先達が「地蔵が草むらから出たがっている」との託宣があり、それを祀ったものである。地蔵の名はその造立年からついたものである。当番2人に班長が加わって準備をする。果物や赤飯を供え、集会所で宴会をする。

児玉郡では本庄市にわずかに認められる。

本庄市

北堀の「地蔵様」〈229〉。7月23日（現在は8月23日）。子育て。清福寺。神輿に安置して担いで歩き、北堀付近の4地区の檀家を廻ってその日のうちに寺に帰る。神輿の下を潜ると丈夫になるという。

仁手の「地蔵様」〈230〉。8月23日。子育て。灯籠を立て、団子を供える。

北足立郡では吹上町で確認できる。

吹上町

本町では下寺と上寺で行われている。下寺（本町二丁目）の「地蔵祭り」〈231〉。8月24日。子

育て。勝龍寺境内。年番が世話をし、灯籠をあげ、団子を作って供えた。余興に土俵を作って相撲をしたりしたが、すでに行われていない。上寺（本町四丁目）の「地蔵祭り」〈232〉。8月24日。疣取り。講元が中心に世話をし、団子を作って供え、地蔵と参道に灯籠を立てて灯す。余興に太鼓や囃子が行われて賑やかである。

荊原土手下の「地蔵様」〈233〉。8月24日。疣取り。当番が世話をし、地蔵様とその周辺に灯籠を立てて灯し、団子を作って供える。お参りに来た人に団子を配る。

鎌塚中寺の「初地蔵」〈234〉。2月24日。子育て。宝蔵院。かつては講があり、近隣から多くの人々がお参りにやって来た。檀家から一人ずつ出て祭りの世話をしたが、現在は近所の檀家だけになっている。「初護摩」といって護摩を焚き、真言太鼓を叩く。参詣者には風船や菓子配った。また、小豆粥と卵の花で会食となる。

小谷では栗原と三丁免で行われている。栗原の「灯籠」〈235〉。8月24日（現在は8月の都合の良い日曜日）。三丁免の「灯籠」〈236〉。8月24日（現在は8月の都合の良い日曜日）。地域全体ではなく、講中の者だけで祭っている。

榎戸の「灯籠」〈237〉。8月24日（現在は8月の都合の良い日曜日に変更）。地蔵寺。

3 地蔵祭りの分布と特徴

前述した地蔵祭りについて、その内容を整理して分布や特徴をまとめてみたい。

(1) 分布

分布範囲と事例数は、北埼玉郡市では行田市20例、加須市29例、羽生市78例、騎西町22例、大利根町8例、川里村3例、大里郡市の熊谷市41例、深谷市11例、北葛飾郡市の幸手市4例、栗橋町5例、杉戸町5例、児玉郡市の本庄市2例、岡部町2例、北足立郡市の吹上町7例である。合計237例。もちろん実数はこれより多少増えるであろう。圧倒的に羽生市が多く、次いでその周辺地域の行田市、加須市、騎西町、熊谷市に多く見られ、さらにその東西にわたって延びたかたちで分布している。事例の集中している地域では各字ごとに行われている（表1・図1）。

地蔵祭りの分布地域は、地理的条件からみると利根川中流域に沿っていると見られる。とくに川に近い地域ほど盛んといえる。

それではその利根川を挟んだ対岸地域ではどうなっているのだろうか。利根川を挟んでの羽生市や行田市の対岸にあたる群馬県の板倉町、館林市、千代田町側では、埼玉県側と同様の地蔵祭りは行われていないようである。例えば、板倉町下五箇字川入では子供墓地にある子育て地蔵にお参りをするという事例があるが、他地区ではとくに地蔵祭りというかたちで行われることはないという。この日、すなわち23日、あるいは24日は「うら盆」といって送り盆の行事が行われているのである（註9）。

対岸の群馬県側で地蔵祭りが集中的に行われるのは、前橋市、高崎市、榛名山を結んだ三角形の内側である。この地域の行事の特徴は巡行習俗、すなわち廻り地蔵であることである。7月24日の地蔵盆から一か月とか8月中など長い期間にわたって、地蔵尊を安置した輿を中心に旗、提灯、万

表1 地蔵祭り一覧

番号	地域	名称	期日	御利益	備考
1	行田市佐間	地蔵祭り	8月23日	子育て	団子
2	行田市埼玉上埼玉	地蔵祭り	8月23日	子育て	団子・余興
3	行田市埼玉片原	地蔵様の祭り	8月23日	子育て	余興
4	行田市埼玉百塚	地蔵祭り	8月23・24日	子育て	団子・灯笼・余興
5	行田市小見砂新田	地蔵祭り	7月23日	子育て	おはぎ
6	行田市長野林	地蔵祭り	8月23日		お札・灯笼・余興
7	行田市酒巻上	地蔵講	8月23日	子育て	団子・灯笼・読経
8	行田市酒巻中	地蔵講	8月23日	子育て	団子・灯笼・読経
9	行田市酒巻下	地蔵講	8月23日	子育て	団子・灯笼・読経
10	行田市中里	地蔵様の祭り	2月24日・8月23日	子育て	灯笼・真言・綿種
11	行田市北河原里前	地蔵様の祭り	8月24日	水難除け	団子・灯笼
12	行田市北河原立野	地蔵祭り	8月23日	子育て	男児・団子・灯笼
13	行田市北河原天袋道下	地蔵様	8月24日	子育て	団子・灯笼・余興
14	行田市北河原天袋道南	地蔵様	8月24日	子育て	団子・灯笼・余興
15	行田市北河原天袋下宿	地蔵様	8月24日	子育て	団子・灯笼・余興
16	行田市北河原新田	地蔵祭り	8月23日	子育て	団子・灯笼
17	行田市門井	地蔵祭り	8月23日	子育て	団子・小屋掛け・子供の籠もり・灯笼
18	行田市堤根	地蔵様祭り	8月23日	子育て	子供・灯笼
19	行田市前谷	地蔵講	3・9月彼岸	子育て	団子・読経
20	行田市須加横塚	地蔵様	8月24日	子育て	団子・新盆提灯
21	加須市本町北横町	地蔵祭り	8月23日	子育て	団子・灯笼流し
22	加須市久下	地蔵祭り	8月23日		
23	加須市不動岡横町	地蔵祭り	8月23日	子育て	団子・読経・盆踊り・新盆提灯
24	加須市不動岡下谷	地蔵祭り	7月23日		
25	加須市多門寺又根	地蔵祭り	8月23日	延命	団子・灯笼・念仏・読経・新盆提灯
26	加須市大越樋之口	地蔵様のお祭り	8月23日		団子・ぼた餅
27	加須市割目	地蔵講	3月15日・9月13日	子育て・疣取り	読経・「地蔵お斎」
28	加須市水深籠宿	地蔵祭り	8月23日		団子
29	加須市馬内富士見	地蔵祭り	8月23日	子育て	廻り・団子・読経・新盆提灯
30	加須市馬内下原	地蔵様	9月日曜日	鉄道死者供養	団子
31	加須市岡古井本田西	地蔵祭り	8月23日	子育て	小屋掛け・子供の籠もり・麦団子・新盆提灯
32	加須市岡古井本田川面	地蔵祭り	8月23日	子育て	小屋掛け・子供の籠もり・団子・新盆提灯
33	加須市岡古井中島	地蔵祭り	8月23日	子育て	小屋掛け・子供の籠もり・団子
34	加須市上三俣東木戸	地蔵祭り	3・8月23日	子育て	団子
35	加須市上三俣仲通	地蔵祭り	8月23日	子育て	団子
36	加須市上三俣学頭下	地蔵祭り	8月23日	腹痛除け	団子
37	加須市下三俣深沼	地蔵祭り	9月第1日曜日		
38	加須市南大桑鳩山	地蔵祭り	9月23日		
39	加須市南大桑熊坂	地蔵祭り	9月23日		
40	加須市北篠崎上中通北	地蔵祭り	8月23日	子育て	団子・灯笼
41	加須市北篠崎上中通南	地蔵祭り	8月23日	子育て	団子・灯笼
42	加須市南篠崎	地蔵祭り	9月23日		
43	加須市中樋遣川北瀬田和	地蔵祭り	8月23日	棘抜き・身代わり	団子・灯笼
44	加須市下樋遣川壱両野	地蔵祭り	8月23日		団子
45	加須市町屋新田入沼	地蔵祭り	8月23日		団子・盆提灯・新盆提灯
46	加須市礼羽前新田	お地蔵祭り	8月23日	疣取り	団子・灯笼・読経・新盆提灯
47	加須市礼羽谷新田	地蔵祭り	8月23日		団子・読経・新盆提灯

48	加須市外野下	夏祭り	8月23日	棘抜き	団子・余興
49	加須市戸川卯の森	地藏祭り	8月23日	取持ち・縁	若い男女・団子・灯籠
50	羽生市栄町	地藏祭り	4・8月23日		団子・灯籠・読経
51	羽生市相生町	地藏祭り	8月23日	子育て・鬼門除け	団子・灯籠・読経・新盆提灯
52	羽生市下町	地藏祭り	8月23日	子育て	団子・新盆提灯
53	羽生市愛宕町	地藏祭り	8月23日	子育て	団子・読経・新盆提灯
54	羽生市旭町	地藏祭り	8月23日	子育て	団子・新盆提灯
55	羽生市大和町	地藏祭り	8月23日	子育て・身代わり	団子・読経・新盆提灯
56	羽生市上町	地藏祭り	8月23日	子育て	団子・新盆提灯
57	羽生市東町	地藏祭り	8月23日		団子・新盆提灯
58	羽生市羽生本光寺	地藏祭り	8月23日		団子・重ね餅
59	羽生市下羽生谷	地藏様の祭り	8月23日	子育て	団子・新盆提灯
60	羽生市下羽生西	地藏様の祭り	8月23日	子育て	団子・新盆提灯
61	羽生市下羽生本田	地藏様の祭り	8月23日	子育て	団子・新盆提灯
62	羽生市秀安上郷	地藏祭り	8月23日	子育て	団子・灯籠・新盆提灯
63	羽生市秀安下郷	地藏祭り	8月23日	子育て	団子・灯籠・新盆提灯
64	羽生市本川俣	地藏祭り	8月23日	子育て	廻り・団子・ハナ・読経・新盆提灯
65	羽生市上川俣北口	地藏祭り	8月23日		団子・新盆提灯・余興
66	羽生市上川俣南口	地藏祭り	8月23日	子育て	団子・灯籠・新盆提灯・余興
67	羽生市稲子・源昌院	地藏様	8月23日		団子・新盆提灯
68	羽生市稲子・光明院	地藏祭り	8月23日		団子・新盆提灯
69	羽生市稲子・薬師堂	地藏祭り	8月23日		団子・新盆提灯
70	羽生市中岩瀬上	地藏様	8月23～25日		団子・灯籠・読経・新盆提灯・余興
71	羽生市中岩瀬下	地藏祭り	3・9月23日		団子・新盆提灯
72	羽生市下岩瀬	地藏祭り	8月23日		団子・ハナ・新盆提灯
73	羽生市下岩瀬下	地藏祭り	3・9月23日	子育て	団子・灯籠・読経
74	羽生市桑崎・河田家	地藏祭り	8月23日	子育て	団子・新盆提灯
75	羽生市桑崎・柿沼家	地藏祭り	十五夜		団子
76	羽生市小松大門	地藏祭り	8月23日	子育て	重ね餅・切餅・お飾り・新盆提灯・余興
77	羽生市上新郷住吉	地藏祭り	8月23日	子育て	団子・盆提灯・新盆提灯
78	羽生市上新郷別所	地藏祭り	8月23日		団子・新盆提灯
79	羽生市上新郷中新田	地藏祭り	8月23日	子育て	団子・ハナ・新盆提灯
80	羽生市上新郷宿上	地藏祭り	8月23日	子育て	団子・念仏・新盆提灯・余興
81	羽生市上新郷横塚	お地藏様	8月24日	子育て	大串団子・小団子
82	羽生市下新郷東	地藏祭り	8月23日		串団子・新盆提灯・余興
83	羽生市下新郷藤兵衛	地藏祭り	8月23日		串団子・新盆提灯・余興
84	羽生市下新郷藤木	地藏祭り	8月23日	瘡	串団子・新盆提灯・余興
85	羽生市下新郷中	地藏祭り	8月23日		串団子・新盆提灯・余興
86	羽生市下新郷野久保・小子松	地藏祭り	8月23日		串団子・新盆提灯・余興
87	羽生市下新田	地藏祭り	8月23日	日限り	団子・新盆提灯
88	羽生市北萩島一班	地藏祭り	8月23日	子育て	団子・新盆提灯
89	羽生市上手子林辻	地藏祭り	8月23日		
90	羽生市中手子林八反	地藏様の祭り	8月23日		団子・新盆提灯
91	羽生市中手子林八幡前	地藏様の祭り	8月23日		団子・新盆提灯
92	羽生市中手子林天神塚中	地藏様の祭り	8月23日		団子・灯籠・新盆提灯
93	羽生市中手子林天神塚ヶ谷戸	地藏様の祭り	8月23日	疣取り	団子・灯籠・新盆提灯
94	羽生市下手子林合羽	地藏祭り	8月23日		団子・新盆提灯
95	羽生市下手子林竹田	地藏祭り	8月23日		団子・新盆提灯

96	羽生市下手子林中村	地藏祭り	8月23日		団子・新盆提灯
97	羽生市下手子林笹良	地藏祭り	8月23日		団子・新盆提灯
98	羽生市上村君上	地藏様祭り	8月23日	子育て・歯痛・腹痛	団子・重ね餅
99	羽生市上村君下	地藏祭り	8月23日	子育て・疣取り	女性・団子・新盆提灯
100	羽生市上村君新田	地藏様祭り	8月23日	子育て	重ね餅・切餅・灯籠
101	羽生市上村君三田内	地藏祭り	8月23日	子育て	団子
102	羽生市上村君北三田内	地藏様の祭り	8月23日		団子・灯籠
103	羽生市上村君南三田内	地藏祭り	8月23日	子育て	団子・灯籠・新盆提灯
104	羽生市上村君風張	地藏祭り	8月23日		団子・灯籠
105	羽生市下村君松の木	地藏様の祭り	8月23日	子育て	団子・新盆提灯
106	羽生市下村君竹の内	地藏祭様	8月23日		団子
107	羽生市下村君・永明寺	地藏祭り	8月15日		「地藏飯」
108	羽生市加羽ヶ崎新田	地藏祭り	8月23日	子育て	団子・新盆提灯
109	羽生市砂山上宿	地藏祭り	8月23日		
110	羽生市今泉外ノ内	地藏祭り	8月23日		団子・新盆提灯
111	羽生市藤井上組東	地藏祭り	8月23日		団子・新盆提灯
112	羽生市藤井上組下藤井	地藏祭り	8月23日	子育て	団子・重ね餅・ハナ・新盆提灯・余興
113	羽生市藤井上組出尾	地藏様の祭り	8月23日		団子・重ね餅・灯籠・新盆提灯
114	羽生市藤井上組上手	地藏祭り	8月23日	子育て	丸餅・灯籠・新盆提灯
115	羽生市藤井上組下手	地藏祭り	8月23日	子育て	団子・灯籠・新盆提灯
116	羽生市藤井下組後流	地藏祭り	8月23日	子育て	団子・新盆提灯
117	羽生市藤井下組前油・後油	地藏祭り	8月23日	子育て	団子・重ね餅・灯籠・新盆提灯
118	羽生市北袋	地藏祭り	8月23日	子育て	団子・新盆提灯
119	羽生市発戸	地藏祭り	8月23日		団子
120	羽生市尾崎	地藏祭り	8月23日	子育て	団子・重ね餅・切餅・新盆提灯
121	羽生市三田ヶ谷平島	地藏祭り	8月23日		団子・赤飯・新盆提灯・庚申祭り
122	羽生市三田ヶ谷広川	春祭り・夏祭り	3月21日・7月23日		庚申祭り
123	羽生市三田ヶ谷中新田	春祭り・夏祭り	3月21日・7月23日		庚申祭り
124	羽生市三田ヶ谷上巣子	庚申祭り	3月21日・7月23日		
125	羽生市三田ヶ谷下巣子	庚申祭り	3月21日・7月23日		
126	羽生市弥勒上新田・上力新田・三新田	地藏祭り	8月23日		重ね餅
127	羽生市日野手新田	庚申祭り	7月17日		団子・赤飯・祝詞
128	騎西町騎西元町	地藏様の祭り	8月23日		灯籠・余興
129	騎西町騎西仲町	地藏様の祭り	8月24日		灯籠・余興
130	騎西町騎西新田	地藏様の祭り	8月25日		灯籠・余興
131	騎西町内田ヶ谷寄居	地藏様	8月23日	子育て	団子・灯籠
132	騎西町内田ヶ谷上郷	地藏様	8月23日		団子・読経
133	騎西町内田ヶ谷中郷	お地藏様の祭り	8月23日	疣取り	団子・盆提灯・余興
134	騎西町外田ヶ谷新田	お地藏様	8月24日		団子・灯籠
135	騎西町西ノ谷	地藏の縁日	8月23日	子育て・疣取り	団子・灯籠
136	騎西町上崎三重堀	地藏祭り	8月23日	子育て・夜泣き	団子・重ね餅・灯籠
137	騎西町上崎相の道	地藏さん	7月23日	子育て	団子・重ね餅・灯籠
138	騎西町上崎前原	お地藏様の祭り	7月20日		団子
139	騎西町下崎上	地藏様	7月23日	疣取り・水難除け	灯籠・余興
140	騎西町戸崎名倉	地藏祭り	8月23日	子育て	団子・灯籠
141	騎西町戸崎上三班	地藏講	8月23日	子育て	団子・読経
142	騎西町戸崎上四班	地藏様の縁日	8月23日	疣取り	団子・灯籠
143	騎西町牛重下	地藏祭り	8月23日	子育て	団子・灯籠

144	騎西町日出安	地藏祭り	8月23日	子育て	団子・読経
145	騎西町中ノ目	地藏祭り	8月23日		団子・灯笼・「地藏講」
146	騎西町上種足七区五軒組	灯笼	8月23日	子育て	団子・新盆提灯
147	騎西町上種足榎戸	地藏祭り	8月22日	子育て・夜泣き	赤飯・灯笼
148	騎西町中種足三区砂組	灯笼	7月31日	子育て	灯笼・余興
149	騎西町中種足三区砂組(イッケ)	灯笼	8月23日	疣取り	団子・灯笼
150	大利根町中渡	地藏様	7月23日		団子・灯笼
151	大利根町北佐波	地藏様	4・8月23日・12月5日	延命	団子・読経・百万遍
152	大利根町間口	地藏様	8・11月23日	子育て	重ね餅・読経・盆踊り
153	大利根町新川通	お地藏様の祭り	7月23日		団子・余興
154	大利根町阿佐間新田	地藏様	8月23日	子育て	甘酒・灯笼・読経・念仏・新盆提灯・余興
155	大利根町北平野	宵晩	8月23日		団子・念仏
156	大利根町琴寄前樽場	お地藏様の祭り	4・8月23日	子育て・疫病除け	打菓子・灯笼・数珠廻し
157	大利根町松永新田	地藏様祭り	8月23日		団子・数珠廻し・新盆提灯
158	川里村屈巢天神前	地藏様の祭り	7月23日	子育て・疫病除け	麦団子・念仏
159	川里村西部向領	地藏様	8月23日		団子
160	川里村新井	地藏様の祭り	8月23日		団子・灯笼・余興
161	熊谷市星川二丁目	地藏祭り	8月24日	身代わり	灯笼・余興
162	熊谷市上石原	地藏会	8月24日	子育て	
163	熊谷市広瀬	地藏祭り	7月23日		廻り
164	熊谷市広瀬上宿	地藏の縁日	8月25日		団子
165	熊谷市大麻生三沢	お祭り	7月24日	子育て	団子・灯笼・お札
166	熊谷市大麻生中廓洞木	お祭り	4・10月23日	日限り	団子・灯笼
167	熊谷市三ヶ尻林	地藏祭り	12月24日	子育て	女性・団子・和讃
168	熊谷市三ヶ尻久保	地藏祭り	12月4日	難除け	女性・団子・和讃
169	熊谷市三ヶ尻横町	地藏祭り	12月4日	子育て	女性・大団子・小団子・念仏・団子撒き
170	熊谷市久保島新屋敷	お祭り	7月23日		団子・灯笼
171	熊谷市久保島窪	地藏祭り			
172	熊谷市小島	地藏祭り	8月24日	疫病除け	団子・灯笼
173	熊谷市玉井上の茶屋	地藏祭り	7月23日	子育て	団子・灯笼・和讃
174	熊谷市玉井高柳	地藏祭り	7月23日	子育て・夜泣き	団子・真言・灯笼
175	熊谷市東別府北	お祭り	7月25日	お手引き	
176	熊谷市西別府足利	地藏祭り			
177	熊谷市上中条竹の内大竹	地藏祭り	3・8月23日	子育て	男女別・団子・掛軸・灯笼・真言
178	熊谷市上中条上西の門	地藏祭り	8月23日	子育て	団子・灯笼
179	熊谷市上中条北別方寺	地藏祭り	8月23日	子育て	団子・灯笼
180	熊谷市上中条荒宿	地藏祭り	8月23日	子育て	団子・灯笼
181	熊谷市上中条中島	地藏祭り	8月23日	子育て	団子・灯笼
182	熊谷市奈良向河原新田	地藏祭り	8月23日		灯笼
183	熊谷市下奈良葉草	地藏祭り	3・4月12日	火伏せ	火伏神社祭り
184	熊谷市中奈良堀の内	地藏祭り	7・8月23日	疣取り	団子・赤飯・お札・灯笼
185	熊谷市中奈良馬場	地藏祭り	8月23日	子育て	団子・赤飯・灯笼
186	熊谷市柿沼遠新田	地藏祭り	8月24日	子育て	団子・灯笼
187	熊谷市柿沼中	地藏祭り	8月24日	疣取り	団子・灯笼・真言
188	熊谷市柿沼今泉	地藏祭り	8月24日	難除け	団子・灯笼・真言
189	熊谷市代上宿	地藏祭り	8月24日	子育て	団子・灯笼
190	熊谷市代下宿	地藏祭り	8月24日	子育て	団子・灯笼
191	熊谷市平戸川端	地藏祭り	8月24日	子育て	団子・灯笼・余興

192	熊谷市久下堤下	地蔵祭り	8月24日		団子・灯籠・お札
193	熊谷市久下八丁	地蔵祭り	8月24日	火伏せ	団子・灯籠
194	熊谷市佐谷田西	地蔵祭り	8月24日	子育て	団子・灯籠
195	熊谷市村岡北西原	地蔵祭り	7月30日	難除け	団子・灯籠
196	熊谷市新堀新田	縁日	7月24日		
197	熊谷市平塚新田上	地蔵祭り	3・9月23日	子育て	団子・灯籠
198	熊谷市平塚新田下	地蔵祭り	9月23日	子育て	団子・灯籠・読経
199	熊谷市万吉上伊勢原	地蔵祭り	8月23・24日	子育て	団子
200	熊谷市万吉東部	地蔵祭り	9月23日	疣取り	団子・灯籠
201	熊谷市今井	お地蔵様のお廻り	1・8月16～24日		廻り・団子・赤飯・念仏
202	深谷市石塚	地蔵祭り	7月24日	子授け	饅頭・赤飯・灯籠・読経
203	深谷市新井西新井	地蔵祭り	8月24日	子育て	団子・赤飯・読経
204	深谷市原郷木之本	地蔵祭り	8月24日	子育て・疣取り	団子・灯籠・お札
205	深谷市新戒中新戒	地蔵祭り	10月23日	子育て	団子・読経・余興
206	深谷市高島	地蔵様	7月23・24日	子育て・病除け	廻り・子供・灯籠・読経
207	深谷市国斉寺	地蔵祭り	8月23日		廻り・団子・赤飯・真言
208	深谷市起会	地蔵祭り			
209	深谷市中瀬伊勢島	地蔵様			
210	深谷市明戸本郷	お地蔵様	毎月24日	商売繁盛・子育て	団子
211	深谷市大塚	地蔵の縁日	毎月24日	子育て	団子
212	深谷市深谷西島	地蔵祭り	4月24日	火伏せ	植木市
213	岡部町山河	地蔵祭り	旧8月23・24日	子育て・夜泣き	団子・盆踊り
214	岡部町榛沢下	地蔵祭り	8月24日	子育て	
215	幸手市松石	地蔵様の縁日	8月23日	子育て	
216	幸手市高須賀	地蔵様の縁日	8月23日	延命	読経
217	幸手市下川崎道口	祭り	8月23日	子育て	
218	幸手市九郎右門	地蔵様のお齋	1・2・3・6・7・9・11・12月24日		混飯・念仏
219	栗橋町本田	地蔵祭り	8月25日		灯籠・余興
220	栗橋町河原代	地蔵様の縁日	8月23日		余興
221	栗橋町高柳島水深	地蔵祭り	8月24日	子育て	余興
222	栗橋町小右衛門上組	地蔵講	9月23日	先祖供養	
223	栗橋町北広島	地蔵堂の祭り	2・7月23日	子育て	重ね餅・丸餅・お札・余興
224	杉戸町才羽上蓮河原	地蔵様の縁日	9月24日	子育て	
225	杉戸町才羽上五反沼上	縁日	7月24日	子育て	子供灯籠神輿
226	杉戸町才羽上五反沼下	縁日	7月24日	子育て	
227	杉戸町才羽上町張陣屋	地蔵様	8月24日		
228	杉戸町堤根上本村・下本村	地蔵様の縁日	5月24日	疫病除け	赤飯
229	本庄市北堀	地蔵様	7月23日	子育て	廻り
230	本庄市仁手	地蔵様	8月23日	子育て	団子・灯籠
231	吹上町本町下寺	地蔵祭り	8月24日	子育て	団子・灯籠・余興
232	吹上町本町上寺	地蔵祭り	8月24日	疣取り	団子・灯籠・余興
233	吹上町荊原土手下	地蔵様	8月24日	疣取り	団子・灯籠
234	吹上町鎌塚中寺	初地蔵	2月24日	子育て	護摩・真言太鼓
235	吹上町小谷栗原	灯籠	8月24日		
236	吹上町小谷三丁免	灯籠	8月24日		
237	吹上町榎戸	灯籠	8月24日		

灯などを立て、鉦・太鼓を叩いて村内を廻り、地蔵和讃を唱えて亡き人を供養するのである。古くは大人の行事であったが、現在は子供の行事になっている（註10）。

こうして見ると、北埼玉地方に盛んな地蔵祭りは利根川が境界となり、その北側にはほとんど行われていないといえることができる。ただし、同じ川沿いであるにも関わらず、北川辺町や妻沼町では地蔵尊は祀られていても、地蔵祭りは行われていないようである。もちろん調査不足もあるとは思われるが、それでも分布の大勢に変化はないと思われる。その理由は明白ではないが、この地は近世に入って何度も河川改修が実施されて流路も変遷しており、現在の北川辺町や妻沼町はまさにその上に位置していた（註11）。利根川の対岸地域ではこうした形態の地蔵祭りが伝承されていないことから、対岸の文化圏に属していたものとも考えられる。実際、北川辺町は現在でも川向こうである。

利根川から東・西・南側に離れるにしたがって次第に分布は稀薄になっていき、東は杉戸町、西は本庄市あたりで消滅する。もちろん、それ以外の地でも地蔵堂があり、地蔵祭りが行われていないわけではない。実際、岩槻市や大宮市をはじめ各地で8月24日に地蔵堂で祭りが行われている（註12）。しかし、そうした祭りは堂のある特定の地域だけで全域で見られる特徴ではない。杉戸町より東南に下がると、「念仏講」という形態のなかに取り込まれてしまう。越谷市では「地蔵講」「念仏講」「月並念仏」などと呼んで、地蔵尊だけでなく他の神仏と並列して念仏供養の対象となっている程度で、とりたてて地蔵祭りという意識は存在しない（註13）。

(2) 期日・名称

まず時期について見る。

盆あとの24日、あるいは前日の宵宮として23日のことが圧倒的に多い。すなわち旧暦の7月24日ということになるが、現在は新暦のため7月と8月とに分かれている。大半が8月に行われている。羽生市などの行事の中心地では月遅れの8月に行くが、本来の祭日である24日ではなく宵宮にあたる23日となっている。23日のみで終了し、24日には何もしないのである。宵宮であることと関係してか、あるいは昼の猛暑を避けるためか、夕方から晩にかけての祭りとなっている。夏の暑い盛りなので太陽の照りつける昼間を避けて、日が沈んだ夕方から人々が夕涼みがてらにお参りにやってくる。沿道にたくさんの灯籠を立て、後述するように「灯籠」という祭りの名称の存在からもうかがえるように、人々にもっとも強い印象を与えるのが夜の祭りということであろう。

7月に行われる地域でも盆は月遅れで行われるところが多く、そこでは盆と関わりを持たないかたちで行われている。

9月23日は彼岸との関係を思わせる。とくに3月23日と9月23日の春秋の両方の場合、彼岸の中日の行事として行っているといえる。地蔵の縁日の宵宮と彼岸の中日の日程がいずれも23日であることからの結びつきであろうか。寺主導の行田市前谷では、祭日を日付ではなく春・秋彼岸と直接呼んでいる。加須市外野下のように、かつては3月23日の縁日に雛市が立ったところもあった。

あるいは仕事の都合で本来の日付を変更することもあった。具体的には養蚕の関係で前後にずらしている場合で、行田市埼玉百塚では20日遅れた9月13日に、騎西町三重堀では8月1日に前倒し

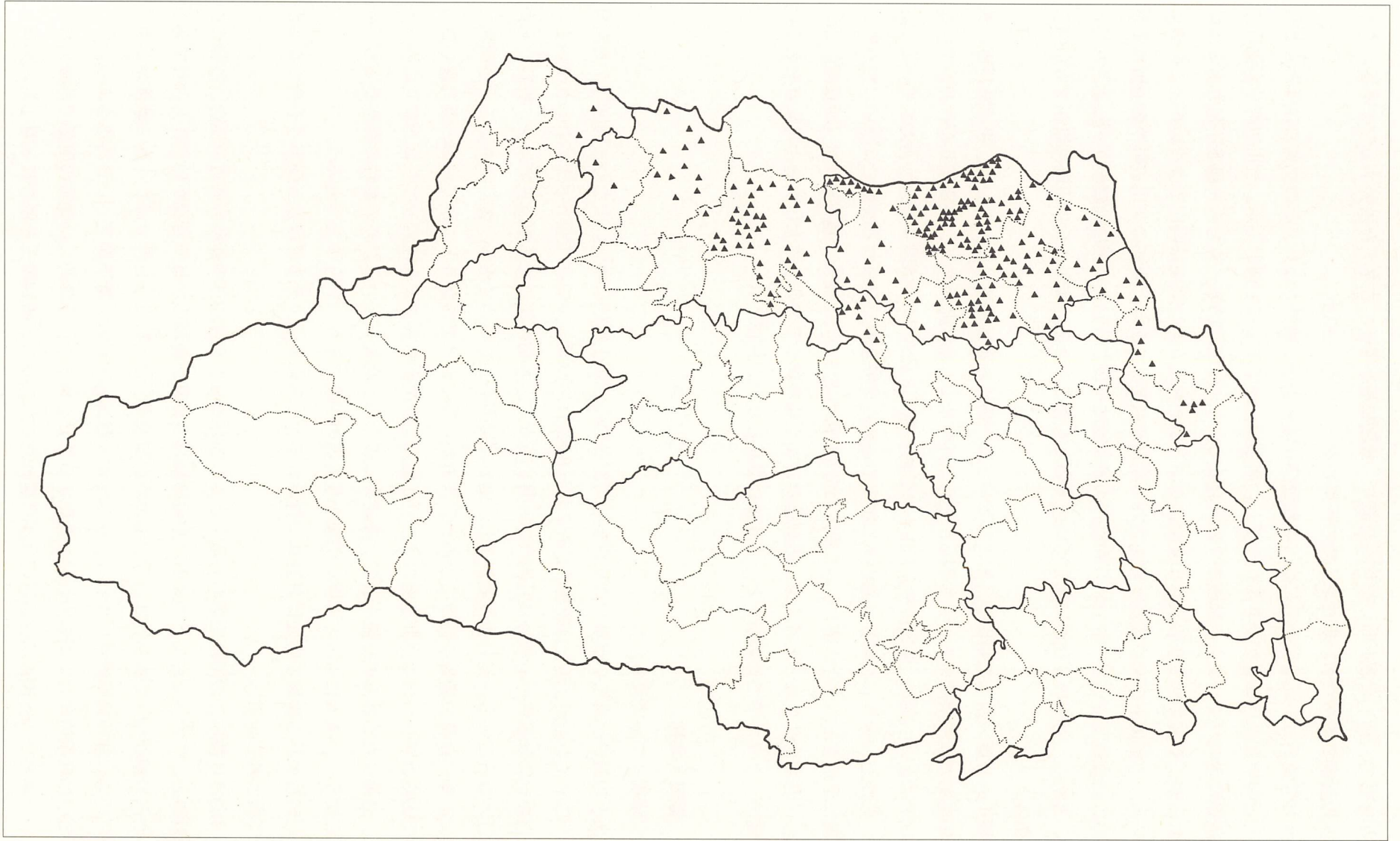


図1 地藏祭りの分布

して行ってきた。

熊谷市三ヶ尻地域ではなぜか12月4日が祭日となっている。

他の祭りや習合し、しかもそちら側の信仰や祭りが重要視されている場合は、その期日が採用されている。例えば羽生市三田ヶ谷の「庚申祭り」がそうである。三田ヶ谷の平島では地蔵とともに庚申と一緒に祀られているが、地蔵信仰に主眼が置かれているため祭りの名称も期日も変化していない。しかし、広川や中新田、巢子、日野手新田では庚申信仰の方が主流となり、名称も「庚申祭り」となり、併せて期日も移動している。逆に地蔵信仰が強い場合は、加須市上三俣学頭下のよう
に庚申祭りが地蔵祭りに吸収されることになる。

ついで祭りの名称についてみる。

「地蔵祭り」「お地蔵祭り」「地蔵様のお祭り」「地蔵様祭り」「地蔵堂の祭り」「地蔵様」「地蔵さん」「お地蔵様」「地蔵様の縁日」「地蔵の縁日」「縁日」などと呼ばれているが、圧倒的に「地蔵祭り」あるいはそれに類する名称が使用されている。まれに「地蔵講」「地蔵様のお齋」とも呼ばれる。いずれも信仰対象である地蔵の文字を冠した名称である。

騎西町や吹上町で見られる「灯籠」は地蔵様に灯籠（実際にはすでに述べたように灯籠というより行灯）を立てることからついた名称であり、この祭りに限らず灯籠が祭りの象徴と思われる他の祭りでも多く使用されている名称である。なかには大和町北平野の「宵晩」のように、宵宮であることがそのまま祭りの名称になっているところもある。

「お祭り」「祭り」「夏祭り」などは地蔵の名を冠していないが、逆にこれがその地域を代表する祭りの証しであるともいえよう。

ところで「地蔵盆」の名称の存否についてであるが、最初に指摘したとおり刊行された調査報告書などには「地蔵盆」の名称が使用されている場合が多少なりとも存在する（註14）。しかし、実際にお祭りを行っている人々に直接うかがったところ、「地蔵盆」の名称を使用している地域はまったく確認されなかった。調査側の先入観の可能性を否定できない。

(3) 祭りの対象としての地蔵尊

地蔵祭りに欠くことのできないものとして存在する地蔵尊であるが（写真3～10）、ここではその造立年代について見てみる。もちろん、地蔵尊の造立年代が地蔵祭りの開始と一致するわけではない。しかし、祭りが地蔵尊の造立以前に溯ることは、特別な事情を除いて難しいであろう。

埼玉県内の分布をみると、地蔵尊の像そのものは全域にわたって分布しており、偏りは認められない。造立年代は、1650年代から盛んになって1700年代で最盛期に達し、その後は減少しながらも昭和年代まで続いている。また庚申塔もほぼ同じ動きを示しているという（註15）。地蔵祭りの中心地である羽生市でも1700年代に圧倒的な造立が認められ、加須市や騎西町でも同様であり（註16）、造立年代に特別な変化は見られない。

人々が地蔵尊に対してどんな御利益を求めているかをみると、そのほとんどが子育て、あるいはそれに付随、波及する意味での子授け、安産、夜泣き止めとなっている。羽生市藤井上組下手のように、七五三の帰りに参拝するとするところもある。疫病除け、腹痛止め、歯痛止めなど病気との

各地の地藏尊



写真3 栗橋町北広島



写真4 羽生市本川俣



写真5 羽生市旭町



写真6 羽生市東町



写真7 熊谷市玉井上の茶屋

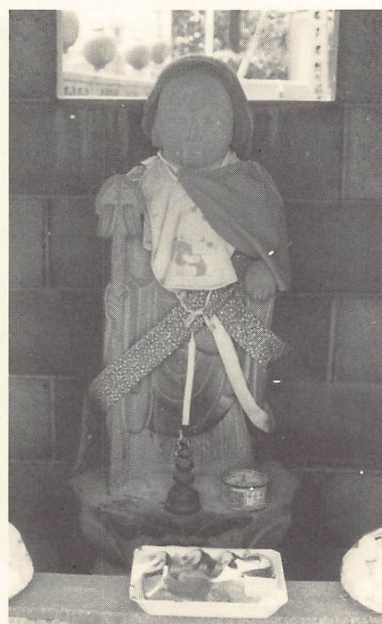


写真8 熊谷市玉井高柳



写真9 羽生市藤井上組下藤井

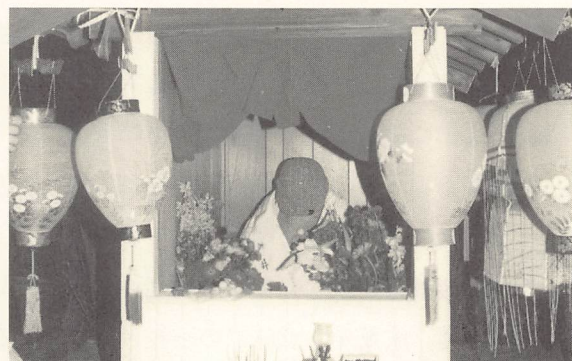


写真10 羽生市下村君下

関係も見られる。また疣取り、棘抜きもかなり聞くことができる。ただし、これらの御利益でも子育てと並んで、あるいは子供と絡めていわれることも多い。地域によってその詳しい由来伝承を有することもあり、とくに何も伝えていないところもあるが、ここでは地蔵尊造立の由来についての考察は直接行わない。

(4) 行事主体・組織

行事主体についてみる。

大半は地区持ちの地蔵であり、その地区の家全体で祭っている。ただしその規模には大きな開きがある。規模の小さい地域の5、6軒から、大きい地域では1000軒を超えることもある。しかし、大規模な地域は町場の場合であり、近年急速に人口が増した結果である。第二次世界大戦前から同じ戸数を保っているような地域では、10軒前後のところが多く見られ、本来はごく近い近隣の地区で親密に祭っていたと考えられる。例えば羽生市本光寺では「九軒家」といい、この地区では一時軒数が増減することはあっても必ず9軒に戻るといわれ、長年にわたって一定の軒数で祭っている。

祭りの基本的体制は、各戸が廻り番で行う当番（他に「サシ番」「カマ番」「年番」などのさまざまな名称がある）が中心となっている。ただし、軒数の多くない地区では当番が宿を提供するだけで、準備は全戸で行い、祭りの後の宴会も全戸で参加することを基本としている。行田市酒巻のように、地区がさらに上・中・下に分かれてそれぞれに地蔵を祀り、祭りもそれぞれで行っていても、その後の宴会は全組が集まって一緒に行うというところもある。

性別を問題にする地区もある。熊谷市三ヶ尻久保のように女性のみ祭りとするところや、羽生市下村君下のように全戸参加とはいいいながら、女性の居ない家では参加しないとすところもある。女性を主体とする背景には同じ期日に行われる安産・子育ての講祭りである「二十三夜」との習合がうかがえる（註17）。興味深いものとして、熊谷市上中条竹の内大竹では年2回の地蔵祭りがあり、春は男性、夏は女性の祭りとする例が見られる。また羽生市上村君のように、昼は宿に女性が集まり団子作りをし、夜は男性が集まり堂で宴会をしながら参拝者の接待をする、というような男女別分業化は他の祭りでも見られる形態である。

地域ではなく檀家という単位で組織されることもある。羽生市稲子では3か所に墓地があってそれぞれ地蔵が祀られ、そこに墓を持つ家によって構成されている。またイッケと呼ばれる一族で祭る例が騎西町中種足三区にある。あるいは個人持ちであったり、寺持ちであったりして、その所有する個人や寺のみでの祭りという所も存在する。

前述したように大半が「子育て地蔵」であり、参拝には多くの子供たちも訪れるが、子供が主体となる行事としている地域はあまり多くはない。行田市の北部や南部、加須市西部で行われるだけである。男児のみの場合と男女ともの場合とがあるが、基本的には男児の行事であったようで、費用集めの各戸廻り、灯籠絵作り、団子配りなどすべて子供たちが行った。行田市北河原の立野や天袋では男児の行事であり、費用集めの各戸廻り、灯籠絵作り、団子配りなどすべて子供たちの仕事である。それに母親が団子作りの手伝いをしている。行田市堤根では小学生男女の祭りであり、灯籠絵を描いたりしている。灯籠絵を描くなどは他でも見られる習俗で、子供が祭りに参加するもっ

とも多いかたちである。

注目すべきものとして加須市岡古井の祭りがある。小・中学校の男児が行うもので、中学三年生が親方となって指示を出し、地蔵様の脇に小屋掛けをして籠もり、団子の材料集めのために各戸を廻って団子は親に作ってもらい、それを売り歩くという習俗である。行田市門井でも子供たちが同様の小屋掛けをしている。他の地蔵祭りではまったく見ることができない特異な行事となっている。

こうした小屋掛けをして籠もり、団子の材料集めのために各戸を廻って団子は親に作ってもらい、それを売り歩くという習俗は、他地域で春の初午や秋のお九日で行われる内容とまったく同じであ

合同の祭り（羽生市下新郷・大光院）



写真11 大光院境内

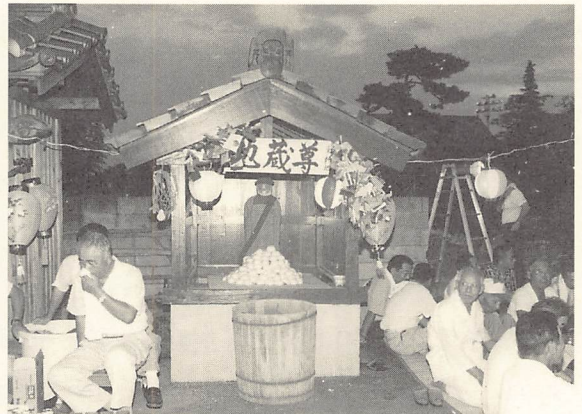


写真12 東

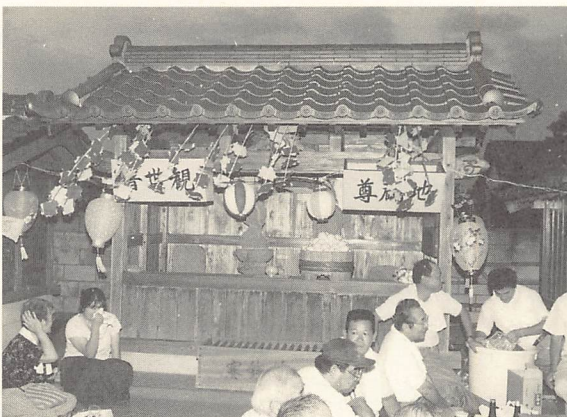


写真13 藤兵衛



写真14 藤木

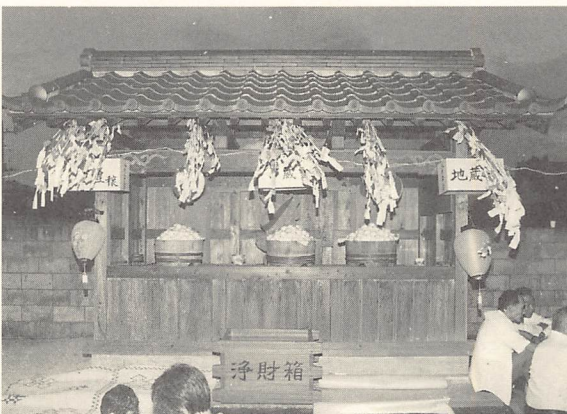


写真15 中



写真16 野久保・小子松

る。2月(あるいは3月)初午の日の「初午」「稲荷講」などと呼ばれる行事は、男児が各家を廻り「灯明銭」と称して金を貰って歩いて蠟燭や菓子を買ひ、神社拝殿や境内に小屋掛けをして一晚籠もった。北足立郡、北葛飾郡北部、入間郡南部に分布する。10月9日(あるいは19日)の「お九日」「九日籠もり」などといわれる行事は、分布地域が二か所に分かれている。ひとつは比企郡、入間郡北部に分布し、大人が拝殿に籠もる習俗である。もうひとつは南埼玉郡、北葛飾郡中部に分布する行事で、男児が「灯明銭」、「油っこ」といって各戸から金を貰い歩き、その金で蠟燭や菓子を買ひ、前夜から神社拝殿や境内に小屋掛けをして籠もった。岡古井などの事例は明らかにこれらの行事と一連のものであり、分布上からは東部地域の「お九日」の流れを汲んでいると考えられる。

こうしてみると、子供が主体となることは当地方の地蔵祭りの特徴とは言い難く、地域全体の唯一の祭りとして機能しているところがほとんどであるといつてよい。実際、当番が中心となって宿を設け、地域全戸が集まって会食をするというスタイルは、地域の祭りそのものである。

また羽生市下新郷のように、もともと各字が独立して祭りを行っていたものを寺の境内に地蔵尊をそれぞれ移設して、大字全体で合同で開催するように変わり、地域をあげての交流の場となっているところもある(写真11~16)。

(5) 行事内容

行事内容については地蔵祭りの特徴と思われる供物、灯籠、念仏、廻りについて整理する。

① 供物

地蔵祭りのもっとも大きな特徴は、供物としての団子である。供えられるものは団子の他に、餅、赤飯、饅頭、ぼた餅などが上げられる(写真17~22・図2)。

団子の供物は圧倒的な分布を示している。団子を作らない方が特別ともいえるほど普遍的に見ることができるが、とくに地蔵祭りの盛んな地域ほど顕著である。基本的には、地区の全戸から集めた米で当番が作ってお参りの人に配る形態であるが、まれに各家で作ってお参りして地蔵様に供えるところもある。また、この団子には呪力があると信じられ、これを食べると子供が丈夫に育つ、風邪を引かない、病気にならない、流行り病にかからない、腹痛に効く、クチムキ(註18)の薬であるなどとされる。団子の呪力伝承が存在するのもやはり、分布の中心地といえる羽生市(中央、南、北荻島、上川俣、稲子、下岩瀬、小松、桑崎、上新郷、下新郷、中手子林、上村君、下村君、尾崎、日野手新田など)に集中し、その周辺である行田市須加、加須市本町、同市大越、同市水深、同市上三俣、栗橋町北広島などに多少広がっている。この団子奉納習俗は、地蔵祭りの分布の中心部に集中した伝承といえることができる。

団子はもともと唐菓子的一种であり、中国から伝えられた経緯から原則として仏前のみに加え、神前や賀義には用いない習慣のところが多いという(註19)。当地方で地蔵祭りの供物として採用されるのもそうした意識の延長上にある(註20)。

団子の材料は当然のことながら米である。ごくまれに麦のこともある。川里村屈巢天神前では真っ黒な胡麻味噌の麦団子であり、加須市岡古井本田では米と麦の団子が地区別に対称的に作られる。

加須市礼羽谷新田のように、「一重箱」といって重箱に四角錐に山盛りにきれいに積み上げると

するところでは、依代的性格が強いのであろうか。熊谷市三ヶ尻横町のように、地藏念仏を唱えながらたくさんの団子を降らすように撒き、それを拾って食べたとする伝承にも注意したい。

餅の場合、その形態は重ね餅、切り餅、小形の丸餅がある。重ね餅を奉納するのは、羽生市の羽生本光寺、上村君上、上村君新田、藤井上組下藤井、藤井上組出尾、藤井下組前油・後油、小松大

地藏祭りの供物



写真17 羽生市上新郷中新田（団子）



写真18 羽生市下新郷・大光院（団子・饅頭）



写真19 栗橋町北広島（重ね餅）



写真20 同左（お札と丸餅）



写真21 羽生市上新郷中新田（ハナ）



写真22 羽生市本川保・千手院（ハナ）

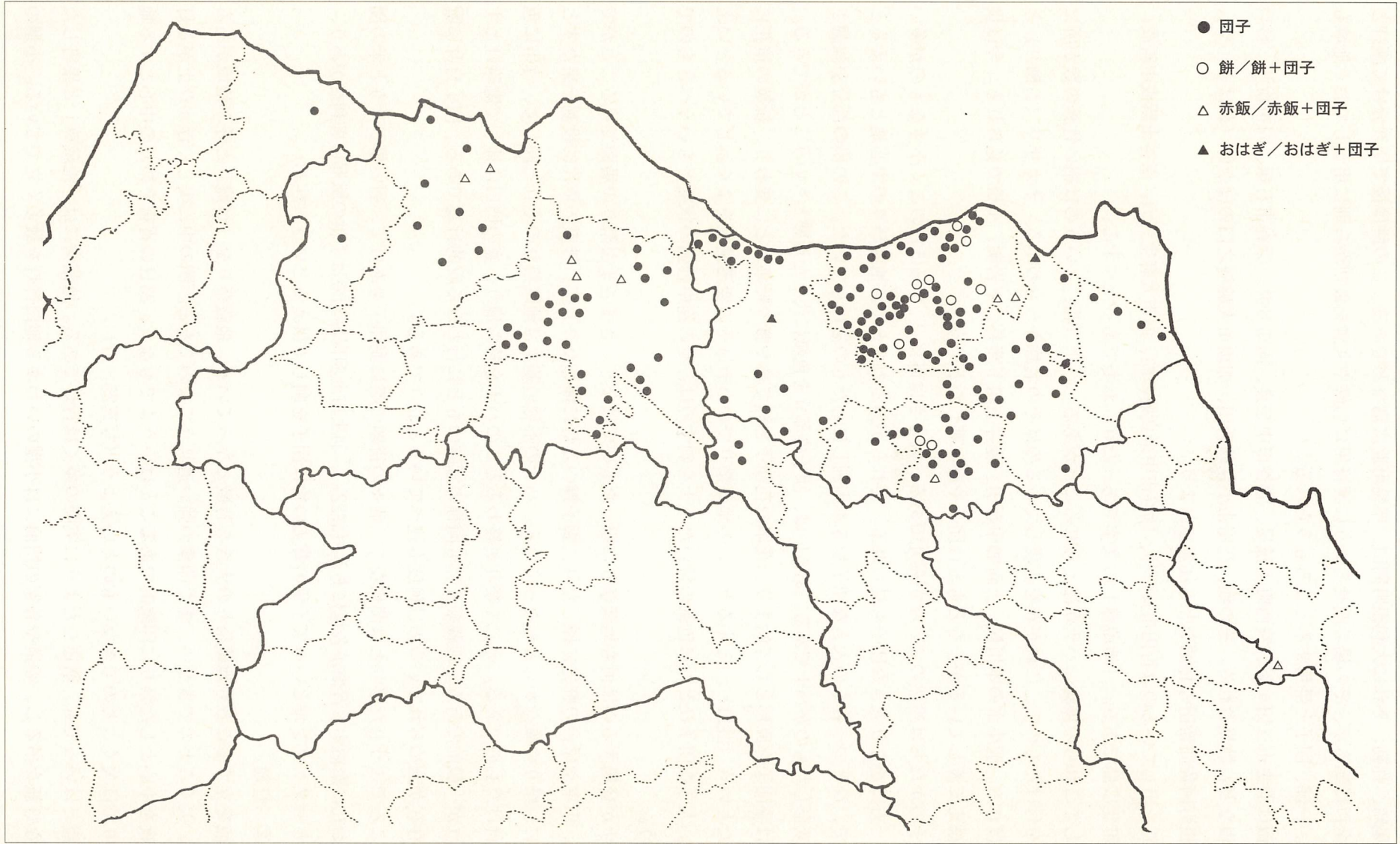


図2 地藏祭りの供物

門、尾崎、弥勒、それに大利根町間口、栗橋町北広島などである。この餅は後で切り分けて護符として全戸に配るが、その場で渡せるように護符用に切餅や丸餅を最初から別に用意しておく地域もある。一部、団子と併用するところもみられる。

赤飯は羽生市三田ヶ谷、騎西町上種足、熊谷市中奈良、同市今井、深谷市石塚、同市新井、杉戸町堤根などに散見される。その他、行田市小見砂新田、加須市大越樋之口のぼた餅（おはぎ）や、大利根町阿佐間新田の甘酒なども注意されよう。

お札を出しているのは行田市長野林、熊谷市中奈良堀の内、同市大麻生三沢、深谷市新戒中新戒、栗橋町北広島である。「地蔵尊」の文字であったり、お姿であったりする。

そしてこれらの供物にハナが添えられることがある。ハナ（花）というのは細い竹籤の数か所に色紙を付けたもので、これが花を表現しているのはその名称からもわかる。オカザリ（お飾り）とも呼ばれる。羽生市の本川俣、上新郷中新田、藤井上組下藤井、下岩瀬、小松で見られる。今は供物に添えて渡しているが、もともとは団子や餅に刺したという。

団子のかたちは当然のことながら丸である。大きさは直径2、3cmほどのごく小さなものが多いが、一方でかなり大きな団子も見られる。それらがあるのはとくに地蔵祭りの中心地ともいえるところで、ひとつ一合もの大きな団子を5本串刺しにしたものを出していた。この串の部分が強調され、変形したものがハナである。あるいは、団子の部分を色紙に代えた形態ともいうことができる。ハナは桑団子を原形として始まり、花串や花団子を経て鳥や瓢や野菜などに変わり、紙製の造花になったという（註21）。とすると、この地蔵祭りでのハナはその変遷過程をよく示しているといえよう。大きな団子ひとつに色紙の付いたハナを刺すのは、その途中経過の状態ともいべきものであろう。

ハナが登場するのは何も地蔵祭りに限ったものではなく、さまざまな祭りの場面で見ることができる。山車や屋台の軒先に挿したり、獅子舞の万灯に挿したりして、神霊の依代的役割を果たすとともに、祭りの賑やかさもなっている。ハナの形態の基本は地蔵祭りのそれと同じで、竹串に色紙を付けたものである。そして祭りが終わるとこのハナを持ち帰り、家の門口に挿して魔除けとするふうが一般的である。地蔵祭りでも同様の意識のもとに行われる呪的行為である。団子自身に呪力の存在が認められているのは何度も述べているとおりである。

ところでこうした祭りとは関係なく、個々の祈願の際に泥団子をあげて、願い事が叶うと米の団子をお札に奉納する習慣が各地にある（註22）。羽生市上羽保呂羽では子供の風邪に御利益があり、治るとセタケダンゴといって子供の背丈の竹に団子を刺して供えるという（註23）。

② 灯籠

灯籠を立てることも地蔵祭りの大きな特徴となっている。地蔵祭りを「灯籠」と呼ぶ地域があるほど、欠くことのできない、また印象の強い道具立てなのである。闇の中に美しく浮かび上がる灯籠が夜を中心とした祭りに印象的であることはいまでもなく、23日の宵宮を祭りの中心とする地蔵祭りでは欠くことのできないものといえよう（写真23～27）。

灯籠とはいっても、前述したように実際の多くは行灯である。地蔵堂には「地蔵尊」と墨書した大きな灯籠を吊るし、参道や各家の門前には小型のいわゆる地口行灯を数多く立てている。小型の

灯笼には「地藏尊」の文字の他に川柳とそれに合わせた絵などを描いている。熊谷市玉井高柳の小型のものは縦長で、正面に「地藏尊」と墨で大きく書き、上部に赤の三本の波線を描き、朱色の散らし模様をつけているが、これは雷除けの呪いという。

ただし、灯笼はなにも地藏祭りに限ったわけではなく他の祭りでもかなり見られるもので、数多く掲げることも同様である。千もの数を出すことから「千灯笼（行田市谷郷の春日神社の夏祭り）」、あるいは一年を表す365個を立てその数の多いことから「馬鹿灯笼（熊谷市村岡の登由宇気神社の八坂祭り）」と呼ばれるように、地藏祭りと重なる分布地域で他の祭りでも使用されている。

③ 念仏

この祭りは参拝者がそれぞれの思いで拝むことが基本であり、特別な儀礼を伴わないところがほとんどである。それでも数は多くないが、読経、念仏、真言、和讃などが地藏尊の前で唱えられる。

読経は近くの寺から住職が来て行っている。仏教行事ということで、地藏尊が寺の境内に祀られている場合は当然であるが、それ以外の場合でも盆との関わりもあって、住職による読経が行われることも少なくない。

念仏は大利根町北佐波や熊谷市今井の賑やかな「ドンガン念仏」があり、それに数珠廻しが伴えば「百万遍」などと呼んで、大利根町の北佐波や琴寄前樽場で行われ、同町松永新田では「南無阿弥団子」といって廻している。人々が集まって念仏を唱える「念仏講」は全県で広く行われている

灯笼



写真23 熊谷市高柳



写真24 熊谷市玉井上の茶屋



写真25 熊谷市高柳



写真26 同左



写真27 騎西町上崎相の道

が、大勢で大数珠を廻しながら鉦・太鼓を打ち鳴らして念仏を唱える「百万遍」「ナイダー」は、春から夏にかけて疫病除けを目的として行われることが多い。この行事は全県に広く見られるが、特に東部に濃厚に分布している。ただし、地蔵祭りが東部にいくと念仏講に解消されていくことから、地蔵と念仏とは繋がりを持っているといえる。

また熊谷市の玉井高柳、上中条竹の内大竹、柿沼中、柿沼今泉、吹上町鎌塚中寺では「真言」「真言太鼓」が、熊谷市の三ヶ尻久保、玉井上の茶屋では「地蔵和讃」が奉納されている。

祭りの様子



写真28 羽生市東町 (知らせ)

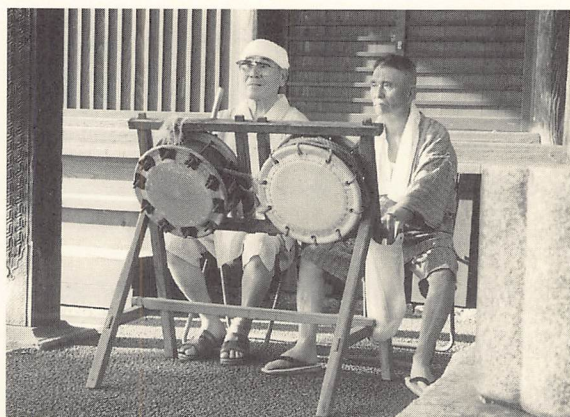


写真29 羽生市栄町 (知らせ)



写真30 熊谷市高柳 (真言)



写真31 同左 (直会)



写真32 羽生市藤井上組下藤井 (余興)



写真33 羽生市上村君三田内 (直会)

④ 廻り

一般的な特徴というわけではないが、地蔵尊を担って地区内を巡るいわゆる「廻り地蔵」を行う習俗がある。地蔵盆に地蔵を寺や堂から借り出して、辻ないし講宿に動座してから祀るふうは全国的に存在する。こうした廻り地蔵の習俗は18世紀の疫病流行時あたりからであり、廻り地蔵の祈願ももともとは疫病除けであったという（註24）。

分布を見ると加須市馬内富士見、羽生市本川俣、熊谷市広瀬、同市今井、深谷市高島、同市国斉寺、本庄市北堀で行われている。行事の方法は大きく二種に分けられる。第一は祭りの期間だけ廻る形態であり、第二は常に廻って祭りの時だけ寺に戻る形態である。前者はさらに一日で廻る場合と、一定期間で廻る場合とに分けられる。いずれも利根川に沿った地域である。

分布のところで述べたように、利根川の対岸の群馬県の前橋市・高崎市・榛名山を結んだ地域では廻り地蔵が盛んに行われている。一定期間にわたって派手に飾り付けられた船状の輿に安置された地蔵尊が村内を廻る習俗が子供を中心に行われている。行列の神輿の形態、祭祀様式の類似、疫病除けといった性格から祇園祭りと関連が指摘され（註25）、死者供養を中心とする盆（地蔵盆）行事が岩舟信仰の流布過程の中で、同じ時期の行事であり、しかも巡行といった祭祀形態をもつ天王信仰と融合して華やかさを増していったとされている（註26）。

埼玉県側で行われる廻り地蔵は岩舟信仰が広まった地域でもあり、とくに第一の形態が群馬県側からの影響によることは、分布の上からも明らかである。ただし、その期間は短縮され、行事内容も簡略化されてはいるが。常に村廻りを続ける第二の習俗はその変形とみるべきだろうか。

(6) 盆との関わり

地蔵祭りで特徴とされるものに盆との関わりがある。報告書で間違っ地蔵盆の名称が使われるのも、この祭りが盆と少なからず関係を持っているからである。代表的な道具立てとして盆提灯が用いられている。具体的には地蔵には盆の提灯を下げて参ることが行われている（写真34～37・図3）。

まず各戸の盆提灯を持参して地蔵様に参るふうが散見できる。加須市町屋新田入沼、羽生市上新郷住吉、騎西町内田ヶ谷中郷などでは、盆提灯を灯してお参りに来て地蔵様のまわりに吊るし、帰るときにまた一緒に持つて帰るのである。

特に注意したいのは新盆との関わりが強いことである。祭りの分布の中心地域では、新盆の家が新盆提灯を地蔵に納める風習がおしなべて認められる。酒や灯明料をつけて納めに来るが、羽生市中手子林瓜ヶ谷戸で「千両付ける」などというように、普段の賽銭よりは高額を納めている。その分布の中心は羽生市であり、ほぼ全域で確認され、その範囲は庚申祭りと習合している三田ヶ谷を除く全地区といっても過言ではない。そして周辺部の行田市、加須市、騎西町、大和町に多少の波及が認められるが、熊谷市では確認できていない。

北埼玉地方では周辺地域と同様に、新盆の家では新調した提灯を軒下に下げる習慣がある。これは新盆の霊が道に迷わないためのものといわれる。この新盆提灯は寺に納めるのが一般的なやり方なのであるが、当地では地蔵尊に納めることになっているのである。羽生市下村君松ノ木のように

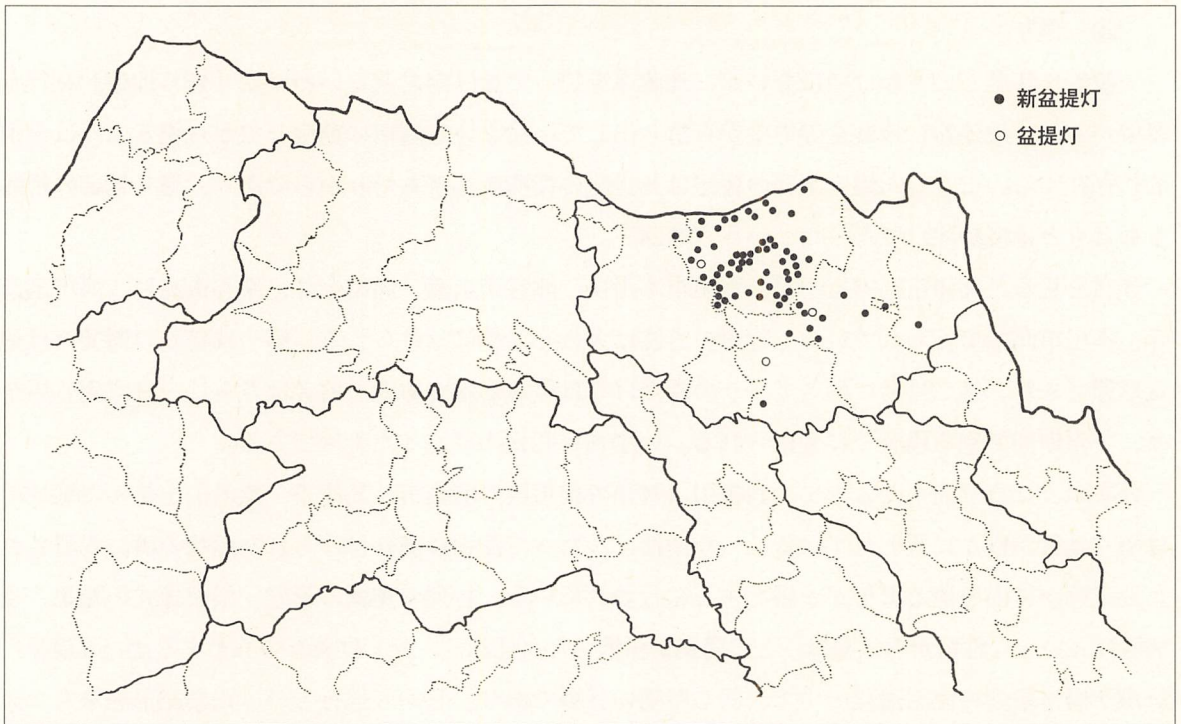


図3 盆の提灯納めを伴う地藏祭り

新盆提灯の納め



写真34 羽生市上新郷宿上



写真35 羽生市下村君下



写真36 羽生市本川俣・千手院



写真37 同左

地蔵様でも寺でもどちらに納めてもかまわない、あるいは騎西町上種足七区五軒組のように、個人持ちのため当家のみが地蔵様に納めるところもある。また羽生市上村君新田では、祀っている地蔵は子育て地蔵で「案内地蔵」ではないのだから、提灯は寺に納めるといふ。しかし当地方では、多くがこうして地蔵様に納められ、この提灯は焼き捨てるかそのまま朽ちるまで地蔵様に吊しておくことになる。一例だが、羽生市下村君下では提灯が壊れるまで何年でもとって置いて吊るしている。

羽生市三田ヶ谷平島では、寺からいただいた塔婆を墓に立てた帰りに地蔵様に参ることになっている。川里村屈巢天神前では13日の「盆迎え」を寺に行くが、墓までは行かずに途中にある地蔵様までお盆様が来ているとあって、地蔵様で線香を上げて提灯に火を灯して帰るといふ。地蔵が盆の迎えや送りと深く関わっていることがうかがえる習俗である。

地蔵様の前で盆踊りをしたという騎西町騎西、岡部町山河や、加須市本町北横町の灯籠流しなどの例も、送り盆、盆の納めの行事の一環であろう。

この日が菩提寺の施餓鬼の日であるところもある。実際、寺の施餓鬼と地蔵祭りが同日で、寺の帰りに地蔵様にお参りするところもある。中川流域にある杉戸町下高野の永福寺の施餓鬼は「高野の施餓鬼」「泥鰌施餓鬼」として知られ、8月23日に行われる。寺の裏の因幡池に泥鰌を放すと、家内安全、無病息災で過ごせるといい、近在近郷から多くの者が参詣し、市が立つ。そこには先祖の霊が集まり、亡き人に似た人にあえるといわれる。大利根町北下新井では「親が死んだら高野の施餓鬼、子供が死んだら岩舟さん」といい、新盆の家では高野の施餓鬼に行くといふ（註27）。「岩舟さん」は前述したように栃木県岩舟町にある岩舟地蔵のことで、近世後半に関東一円に広まった信仰である。

また24日を「うら盆」などといふ盆の終わりの日とする地域も周辺部では認められ、北埼玉地方ではそれが「地蔵祭り」に取って代わっていると考えられる。もちろん、先祖を送る送り盆はいつたん16日に行われはするが、まだ新しくおだやかではない新仏の霊は、それとは別にこの世とあの世の境に立って二つの世界の橋渡しをする信じられている地蔵尊にあらためて送る必要がある、と考えたのではなからうか。

ところで分布という視点から見ると、羽生市、加須市、熊谷市などでは、送り盆の時に家の門口や川端に一尺四方前後の土壇を作り、この土の台の上に盆棚から下げた供え物を飾って送る風習がある。ちょうど地蔵祭りの盛んな地域と重なり合っていることになるが、両者の関係については今後の課題である。

(7) 他の祭りとの習合

他の祭りと習合している場合もある。羽生市三田ヶ谷では「庚申祭り」との習合が顕著である。ただし正確には習合ではなく、祭りの集合・合同である。より重要な祭りにあまり重きを置かれていない祭りが取り込まれてしまっているのである。すなわち、三田ヶ谷では地蔵祭りより庚申祭りの方が重要視されたということである。

庚申祭りは「お庚講」「お庚様」「お庚待ち」などといふ、庚申の日の夜に人々が宿に集まり夜

明かしで語り明かす行事で、この時地震があると「揺り返し」といって日を改めて同じ宿でやり直すなどの伝承を有し、北埼玉地方で盛んに行われていた。特に加須市を中心とした地域に濃密に分布していることから、加須市に接する羽生市東部の三田ヶ谷で庚申祭りが地蔵祭りを取り込んでしまっているのであろう。

吹上町では町場から離れると「川垢離」などと称して、春から夏にかけて、大山講、三峰講、宝登山講、大山講、古峯講などと一緒に合同した講の祭りのなかに組み込まれたかたちで「地蔵講」を行っている。

また分布のところで述べたように、南部にいくと念仏講のなかに埋没していってしまう。

4 供物からみた北埼玉の地蔵祭り

北埼玉地方に集中して分布する地蔵祭りについて、その意味や背景について供物である団子をキー・ワードとして他の祭りでの神饌との比較のなかで考えてみたい。

(1) 供物としての団子

埼玉県で見ることのできる代表的・特徴的な神饌・供物としては、ここで取りあげた団子の他に、餅、赤飯、白米、粥、菜、甘酒などがあげられる。餅は基本的には、糯米を蒸して白で搗いて丸く二段重ねにしたいわゆる鏡餅である。赤飯や白米では三角錐に高く盛り上げる「お高盛り」にされることが多い。粥は筒粥神事に代表されるように年占にも使用されるが、白粥、あるいは小豆粥が用いられる。菜は米の粉を水で練って形を整えたものである。甘酒は白米の粥に麴を混ぜて発酵させた甘みのある酒である。これらはいずれも、口にするとその人は無病息災であるとする呪力伝承を伴う飲食物として各地で伝承されている。いずれも原料が米であることが特徴である。ただし、夏の行事の場合は収穫の済んだ麦を使用することもある。

そうしたなか、団子を神饌・供物とする祭りは、埼玉県ではこの「地蔵祭り」と「団子撒き」と呼ばれる祭りで用いられている。

後者は「団子撒き」「団子投げ」「団子祭り」「団子待ち」などと呼ばれ、団子を参詣者に撒くことを主体としている。団子そのものは地蔵祭りのそれと同じである。穀類の粉を練って小さく丸めたものを蒸したり茹でたりしたもので、そのほとんどは米の粉で作られる。春あるいは秋に行われ、「春祭り」「秋祭り」「お日待ち」などの名称もあるように、その地区あがての祭りとして理解されている。分布地域は、熊谷市、江南町、岡部町、川本町、花園町、寄居町、東松山市、小川町、嵐山町、滑川町、鳩山町、吉見町、玉川村、都幾川村、東秩父村、の大里郡と比企郡、さらに秩父郡の一部で、県のほぼ中央に広がっている。「団子」は「天狗団子」とも呼ばれ、飢饉に見舞われた時に天狗がやってきて村人に団子を投げて救ったとの由来伝承を有する地域もある。各戸から集めた米や神田から穫れた米を、当番が宿で粉に挽いて団子を作り、飯台に盛って神前に供えてから祭典後に拝殿から撒くのが一般的な方法である。なかには木の上から投げたり、専用の撒き台を持つところもある。拾った団子は笹に挿して持ち帰り、厄除け、病気除けの呪物とされ、たくさん拾うほど豊作である、踏みつけられた団子はとくに呪力が強い、などともいう。

団子の原料は基本的に白米の粉である。丸という形は柳田國男が示したように、心臓の形であり魂の形でもある。百万遍で「南無阿弥団子」と唱えて数珠廻しをするところでは、団子は数珠の象徴でもある。また白という色は再生を促す聖なる色でもある。真っ白で丸い団子は神霊の依代であり、呪力の源として意識されてきたといえよう。

(2) 神饌の分布からみた団子の意味

埼玉県において神饌・供物に地域的な特徴を有する祭りが存在する。分布の上から見ると、団子、甘酒、粢などに大きな特徴が認められる。

団子についてはすでに述べているように、ここでの主題である北埼玉地方を中心とした夏の「地蔵祭り」と、大里郡・比企郡を中心とした県中央部の春・秋の「団子撒き」である。

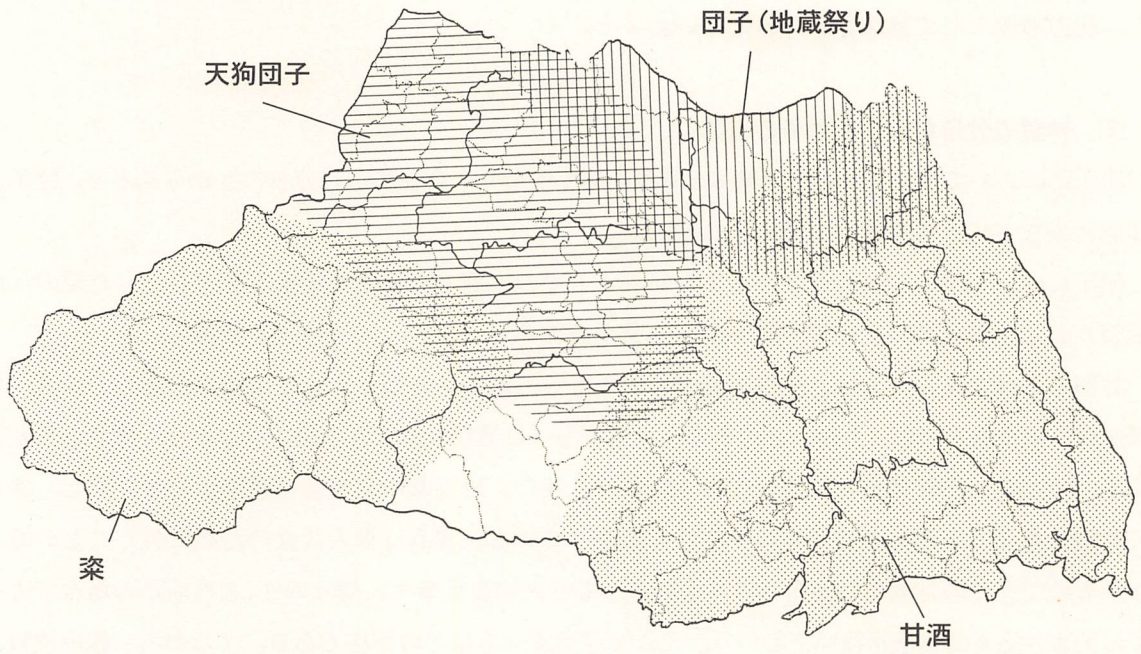
甘酒を神饌とする行事は、豊穰祈願の目的をもって新年、春祭りとして広範に分布している。甘酒が祭りの主体となることから、その祭りの名称も「甘酒祭り」「甘酒待ち」などとも称されるが、埼玉でオビシャと呼ばれる行事に代表される(註28)。埼玉県の東南部に濃厚な分布を示し、さらに県境を越えて千葉県や茨城県の一部にも広がっている。甘酒は神人共食のために欠くことのできないもので、この甘酒作りが祭りの当番のもっとも大切な仕事で、祭りの2、3日前から場合によっては泊まり込んで甘酒を搔いたという。ここで注目すべきはその作法である。すなわち、飲み放題、食い放題を原則としているのである。というより、より古いかたちは、好きなだけでなく、大量にしかも強制的に飲食させられることであったと考えられる。オビシャ分布地域の西側にあたる久喜市東部、幸手市西部、宮代町中部、鷲宮町東部、栗橋町全域、庄和町東部では「甘酒祭り」、さらに加須市、鷲宮町、北川辺町、大利根町の一部では「秋祭り」に甘酒が振る舞われている。オビシャの周辺部、すなわち北足立郡・南埼玉郡・北葛飾郡の南部、入間郡では、同じ行事が「稲荷講」「初午」の名称となっており行われている。

粢の分布は西部山地の秩父地方、とくに大滝村や両神村の山深い地域に色濃く分布している。周辺部の児玉郡の神川町、神泉村、比企郡小川町、都幾川村あるいは入間郡の川越市、鶴ヶ島市などにも散見できる。素材は基本的には米であるが、埼玉の山地ではその風土や生業を背景に、粟、黍、稗、大豆なども粢の材料として使用されている。形は二つの丸く平たいものを重ねるものが多いが、他に蒲鉾状や饅頭状のものもある。全国的な傾向を見ると、山の神との関わりが深く、時期としては11～12月を中心とした冬季が多く、埼玉県の事例もこの流れの中にあるという(註29)。

すなわち、供物という視点から祭りの分布を見ると、県東部・南部はオビシャや初午を含む甘酒振舞い、北部は団子、中央部は団子撒き、西部は粢とすることができる。その実施時期を見ると、東から西に次第にずれるかたちで、東端部のオビシャは1～2月、東南部の「初午」は2～3月、オビシャに隣接する西部の「甘酒祭り」は9～10月、中央部の「団子撒き」は3～4月(あるいは9～10月)となっている。そして北部の「地蔵祭り」は旧7(現8)月24日である。

この分布に地形的な要因を入れ込んで見ると、団子は団子撒きが台地・丘陵部、地蔵祭りが利根川流域氾濫原に、甘酒は中川水系氾濫原に、粢は山地に分布するといえる。こうして見ると、北埼玉地方の団子は、丘陵地の団子撒きと低湿地の甘酒振舞いに挟まれるかたちで存在していることが

祭りにみられる神饌・供物



埼玉県の地形

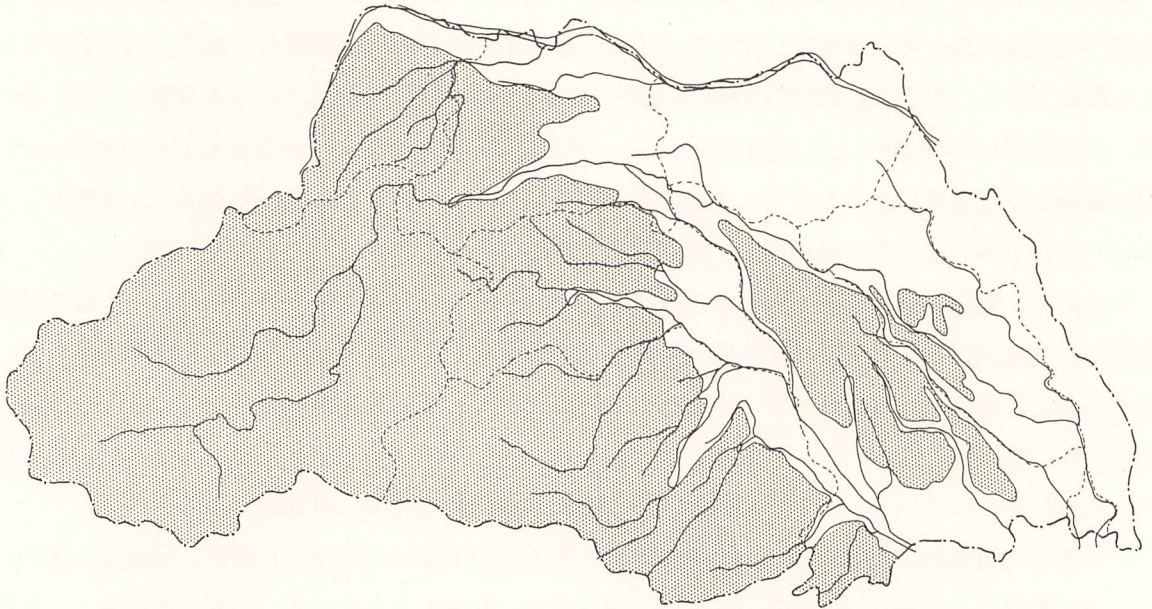


図4 祭りにみられる神饌・供物と地形の関わり

わかる（図4）。

甘酒振舞いと団子撒きは時期は少しずれるが、いずれも春祭り（一部秋祭り）である。具体的には前者は新年・新春すなわち年の始まり、後者は春すなわち農耕開始時期である。共通点は、材料がいずれも米であること、そしてその行為は無制限の飲食や振舞いをする飽食儀礼であることである。対立点は前者の甘酒が形をもたない液体であるのに対し、後者は丸い固体であることである。また、いずれも秋の祭りの場合には籠もり行事が付随している。

甘酒振舞いの分布する中川流域は洪水の常襲地帯である。洪水は人々に多大な被害をもたらすが、同時に肥沃な土壌をもたらしもする。甘酒にはこうした洪水で流されもたらされる土砂のイメージが重ね合わせられたのではないであろうか。地域は離れるが、稲作の予祝儀礼である「田遊び」のなかで「汁かけ飯」の共食が田植えの雨を呼ぶ呪術とされることと通底する意識である（註30）。それに対し、団子撒きの行事は水の確保に苦勞をし、溜池すら存在する丘陵地に広がっている。団子はこうした丘陵地の固くしまった地を表現し、また団子を積み上げることで神霊の依代となり、それを撒くことによってたわわに実った稲の穂（実）を象徴しているとみられないであろうか。甘酒振舞いをする地域でも稲穂を表現するとする霰撒きがあり、団子撒きに通じる行事も存在する。

地蔵祭りはこの二つの代表的な祭りの中間に位置するかたちで存在する。しかし、祭りの時期は春と秋に挟まれた夏であり、場所は氾濫原にあるにもかかわらず供物は甘酒でなく団子なのである。隣接する団子撒きの習俗の波及であろうか。一部周辺部で行われる秋の籠もり行事も入り込んでいいる。そして前二者のように豊作祈願・収穫感謝というような明確な目的意識は認められず、せいぜい厄除け・病除けが団子に付加されるだけである。なぜこの地に春秋の氏神を核とした農耕儀礼ではなく、夏の仏尊を核とした修祓儀礼が突出しているかは明らかではない。

しかし、地蔵を祭りの対象とすることからも一応仏事ではあるが、実際は年間を通じて唯一の地域の祭りとして行われているのは確かである。他地域のように、地区の氏神を中心とした祭りはもちろん祭典がないわけではないが、それが住民がこぞって参加する地域の祭りとしての機能を果たしているわけではないのである。

おわりに

北埼玉地方の地蔵祭りについて、分布や諸要素からいくつか考えられることを述べてみた。資料もかなりの数になったが、まだ調査が十分でないところもあり、視点として河川との関わりなどもっと考えてみたいこともあったが、とりあえず一区切りをつけておくことにした。神饌・供物については日頃から興味を持っていたので、これからもそうした視点をさまざまな行事を見ていってみたいと考えている。

最後になりましたが、今回の調査に関して大館勝治氏、小菅峻道氏、小林英二氏、中島義國氏、中島利治氏、平井加余子氏、柳正博氏をはじめ、いちいちお名前はあげませんが、各地区の地蔵祭りの関係者のみなさんには大変お世話になりました。紙面を借りてお礼申し上げます。

註

- 1 地蔵尊の縁日を24日とするのは中国の五祖山戒禪師が月の30日のそれぞれの日に30の仏を祭ることとし、そのうちの24日を地蔵菩薩の祭りにあてたことによるという（真鍋広済『地蔵菩薩の研究』昭和35年 三密堂書店 48頁）。
- 2 山路興造「京都府の盆行事」『無形の民俗文化財記録第41集 盆行事Ⅲ』平成10年 文化庁文化財保護部 23～25頁
- 3 文化庁『日本民俗地図1（年中行事Ⅰ） 解説書』昭和44年 282～410頁
- 4 小川直之「地蔵信仰の諸相」『民俗のこころを探る』平成6年 初芝文庫 193～194頁
- 5 事例の大半は筆者の聞き取り調査に基づいているが、その他以下の文献を参考とした。特に熊谷市に関してはその多くを中村光次の著作から引用させていただいた。埼玉県神社庁神社調査団『埼玉の神社 入間・北埼玉・秩父』昭和61年。同『埼玉の神社 大里・北葛飾・比企』平成4年。同『埼玉の神社 北足立・児玉・南埼玉』平成10年。羽生市役所秘書広報課『羽生昔がたり』5・9・10・12・15 昭和62・平成3・4・6・9年。加須市史編さん室『調査報告書第二集 加須市の石仏』昭和54年。同『加須市史 通史編』昭和56年。騎西町教育委員会『騎西町史調査資料第2集 騎西の石仏』平成3年。大利根町教育委員会『大利根町史 民俗編』平成11年。川里村教育委員会『かわさとの民俗 第二巻』平成11年。中村光次『熊谷・辻の地蔵尊とその信仰』昭和55年 自刊。

記載内容は基本的に祭りの内容だけに絞り、地蔵尊の由来などに関しては省略した。また、全体像が少しでも見えるように、旧行の事例や具体的内容が明らかでない祭りも記述している。当然調査漏れも存在するであろうが、当地方の地蔵祭りの概要の把握には支障がないと考えている。
- 6 正確には灯籠ではなく行灯である。長方形の木枠に和紙を貼り、そこに文字や絵を描き、中に明かりを付けて照らすごく簡単な作りのものである。当地方では、地蔵尊を祀る建物の正面には大きなものを吊るし、参道や各戸の門前には小さいいわゆる地口行灯を立てるのが一般的に行われている。地元では灯籠と行灯の語が混同され、ほとんどは灯籠の語が使用されているので、ここでは「灯籠」の語で統一して記述している。
- 7 詳しくは埼玉県教育委員会『埼玉の祭り・行事』（平成9年 106～110頁）を参照のこと。
- 8 中村光次「熊谷の巡行地蔵信仰」（『埼玉民俗』10 昭和55年 72～74頁）を参照のこと。
- 9 板倉町史編さん委員会『板倉町史 別巻8 板倉の民俗と絵馬』昭和58年 52頁
- 10 都丸九十九『地蔵行事の概要とその和讃集』昭和31年 上毛民俗学会（大島建彦・編）『民間の地蔵信仰』再録 1992年 溪水社 63～92頁
- 11 利根川の河川改修の歴史については、埼玉県教育委員会『利根川の水運』（平成元年）を参照のこと。
- 12 岩槻市史編さん室『岩槻市史 民俗資料編』昭和59年、大宮市『大宮市史 第五巻』昭和44年。
- 13 越谷市史編さん室『越谷市民俗資料』昭和45年
- 14 例えば埼玉県神社庁神社調査団『埼玉の神社』、埼玉県『埼玉県史 別編2 民俗2』（昭和61年）、中村光次『熊谷・辻の地蔵尊とその信仰』など。唯一、行田市埼玉百塚で大正年間に始

まった祭りは創始者である住職によって「子育て地蔵の盆祭り」と銘打ち、盆行事としての位置づけをしているが、関西出身で地蔵盆を熟知していたと思われるこの住職ですら、「地蔵盆」の名称は使用していない。

- 15 『新編埼玉県史 別編2 民俗2』71頁
- 16 羽生市については中島利治氏の調査による。加須市史編さん室『加須の石仏』、騎西町教育委員会『騎西の石仏』。
- 17 地蔵の利益は暁に祈ることによって高まるとされ24日の明け方が重視されたとすれば、23日夜に遅い月の出を待つ講がつながることになり、女性が中心となる「二十三夜講」が子供を守護する地蔵講と習合するのは自然であるという（和歌森太郎「地蔵信仰について」『宗教研究』124 昭和24年『民衆宗教史叢書10 地蔵信仰』再録 昭和58年 雄山閣出版 66頁）。
- 18 クチムキとは、この地方で腹痛や風邪などの病気を指している。
- 19 本山荻舟「だんご」『飲食事典』1958年 平凡社 362頁
- 20 地蔵祭りの団子は普遍的な供物である。例えば青森県下北半島の「地蔵講」では各家から団子を作って集まり交換する「団子取替え」の習俗がある（高松敬吉「地蔵講におけるダンゴ交換の習俗」『日本仏教』49 昭和54年 大島建彦・編『民間の地蔵信仰』再録 38頁）。
- 21 大森恵子「但馬地方の地蔵盆と地蔵信仰」『近畿民俗』110 昭和63年（大島建彦編『民間の地蔵信仰』再録 467頁）
- 22 例えば富士見市水谷の山王坂の地蔵様は子供のオデキ、坂戸市石井の北向き地蔵は子供の夜泣き、同市泉町の地蔵は耳の病の時に、泥団子を持って祈願し治ると米団子を供える（『新編埼玉県史 別編2 民俗2』72頁）。ただし、こうした供え物は団子に限らず、唐辛子、大豆、小豆、酒など多種にわたっている。
- 23 埼玉県『新編埼玉県史 別編2 民俗2』80頁
- 24 松崎憲三『巡りのフォークロア』1985年 名著出版 103頁
- 25 都丸九十九『地蔵行事の概要とその和讃集』63～92頁
- 26 松崎憲三『巡りのフォークロア』61頁
- 27 大利根町『大利根町史 民俗編』平成11年 411頁
- 28 オビシャというのは、騎馬で的を射る流鏑馬に対して、歩んだり座ったりして弓を射る所作を伴う祭りのことで、ブシャ（歩射）が訛ってビシャ、あるいは接頭語の御をつけてオビシャと呼ばれている。一般には年頭にあってこれから一年間の豊作を占い祈願する春祭りとして、的射を伴う行事を指している。ただし、実際にはかなりの変化があり、オビシャの語は使用しても必ずしも的射が行われているわけではなく、埼玉の場合は的射を伴わない事例の方が実際多いのである。祭りのうち直会のみをオビシャと呼ぶ地域すらあるように、埼玉ではオビシャの本質は飲み食いにあるとする意識が認められる。詳しくは埼玉県教育委員会『埼玉のオビシャ』（平成4年）参照のこと。
- 29 桑の事例に関しては、飯塚好「『桑』の諸相」『研究紀要』16 平成6年 埼玉県立歴史資料館 71～91頁を参照のこと。

30 野本寛一「田遊び系芸能における養育呪術と雨乞い呪術」『懐山のおくない』天竜市教育委員会 昭和61年 176頁